

781-74



傾斜試驗並二小形船測度解説

農林省水産局編

781

74

74





781

74

昭和十三年十二月

傾斜試驗並ニ小形船測度解説

附 船鑑札規則及關係規程

農林省水產局



781  
74

# 傾斜試験

## 目次

一、傾斜試験ヲ行フ理由……………	一
二、傾斜試験ノ方法……………	二
三、傾斜試験ニ依リGMヲ求メル計算式……………	三
四、移動重量物ノ重量ノ決メ方……………	四
五、傾斜試験ヲ行フニ當ツテノ準備及ビ注意スベキ事項……………	五
六、傾斜試験ヲ行フ順序……………	六
七、傾斜試験ノ際、記録、測定スベキ事項……………	七
八、傾斜試験ニ必要ナル人員……………	八
九、傾斜試験ノ實例……………	九

附圖 (第一圖ヨリ第六圖マデ)





# 小形船ノ測度

## 目次

一、積量、總噸數、純噸數	三
二、測度用品	三
三、卷尺ノ使用法ト寸法ノ讀ミ方	三
四、實測	三
(一) 船ノ長サノ測リ方	三
(二) 船ノ幅ノ測リ方	三
(三) 船ノ深サノ測リ方	三
(四) 上甲板又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ測リ方	四
(五) 機關室ノ測リ方	四
五、總噸數ノ算定	四
(一) 上甲板下又ハ舷端以下ノ總噸數ノ求メ方	四
(二) 上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ總噸數ノ求メ方	四
(三) 船ノ總噸數	四
六、純噸數ノ算定	四
(一) 推進機關ヲ有セザル船ノ場合	四
(二) 推進機關ヲ有スル船ノ場合	四
附圖(第一圖ヨリ第十六圖マデ)	四



# 船鑑札規則及關係規程

## 目次

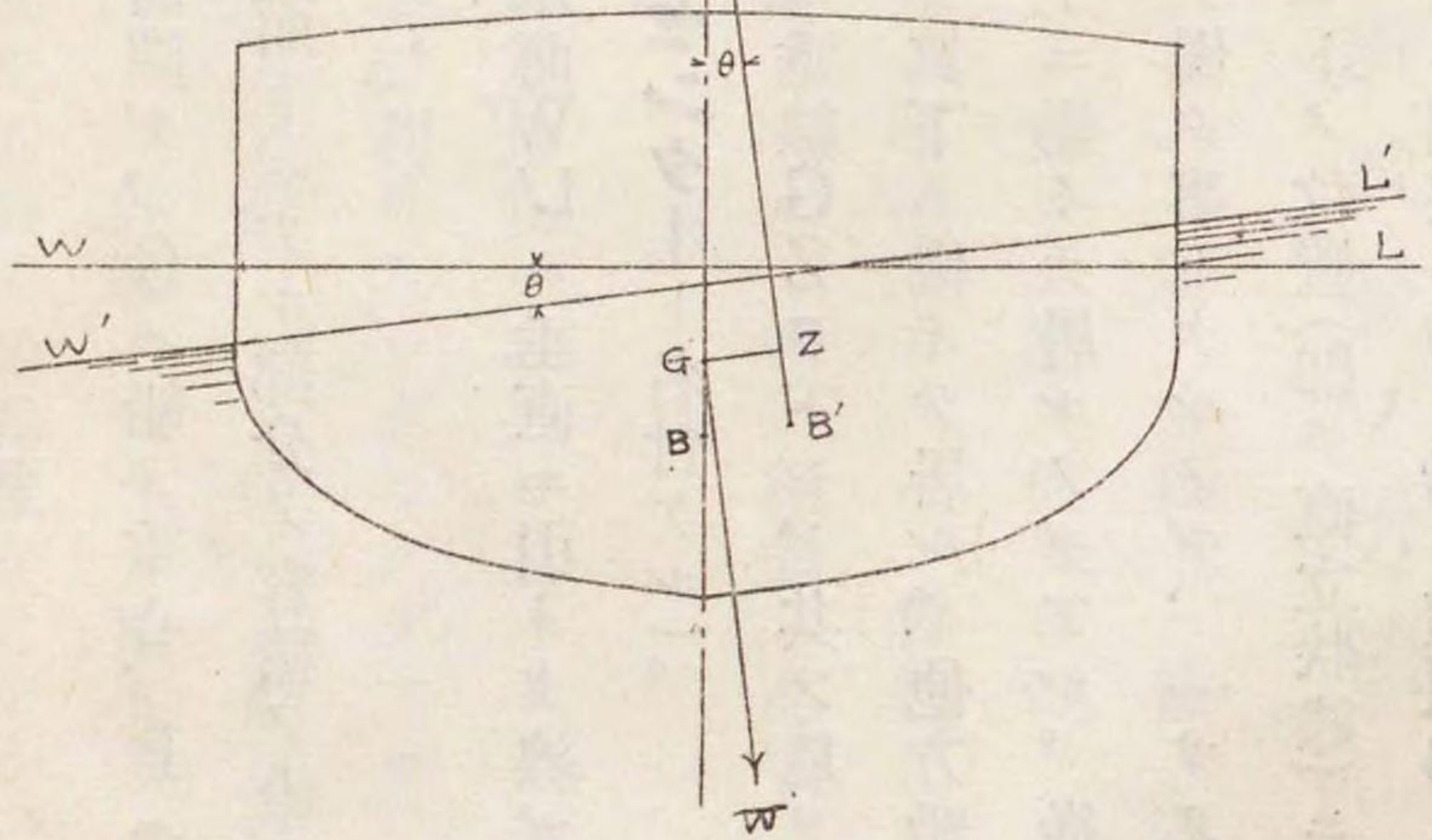
第一 船鑑札規則……………	四九
第二 船鑑札規則施行手續……………	五九
第三 船鑑札事務ノ取扱ニ關スル注意……………	六六
第四 船舶積量測度法……………	七四
第五 簡易船舶積量測度規程……………	八〇

### 一、傾斜試験ヲ行フ理由

漁船ハ商船ヤ軍艦等ニ較ベテ船體ガ小サイニモ拘ハラズ、遠洋ニ出漁スルノデアルカラ、海上

デ度々時化ニ出會ヒ、又荒天ニ際シテモ、漁撈ニ従事スルヲ常トスルノデ之等ニ對シテハ十分ニ強イ構造ヲ必要トスル事ハ勿論、又十分ナル安定性ヲ持タセネバナライ。傾斜試験ハ船ノ安定性ヲ知ルニ最モ重要ナル船ノ重心ノ位置ヲ知ル爲メニ行フモノデアアル。

一般ニ普通ノ船ハ横ニ傾クト又モトノ位置ニ戻ラントスル力ガ出テ來ル。此ノ力ハ船自身ノ重心ト船ガ水ニ浮ブ浮力ノ中心トノ位置ノ關係ニ依ツテ定マルモノデアツテ、之ノ力ヲ復原力ト言フ。今コノ復原力ニ就





イテ簡單ニ説明スル。

第一圖ハ船ノ横斷面圖デ、Gハ船ノ重心、Bハ船ガ初メノ位置(即チ直立状態)ニアル時ノ浮力ノ中心(ツマリ船ノ水面下ニアル部分ノ容積ノ中心ニ相當ス)B'ハ船ガ或角度 $\theta$ ダケ傾イタ時ノ浮力ノ中心トスル。

今B'ヨリ其ノ時ノ水面W'L'ニ垂直ニ引イタ線ガ船ノ中心線(圖ニ於テBG)ト交ハル點ヲMトスル。(コノM點ヲメタセンタート名付ケル)。

又重心GヨリB'Mニ垂線GZヲ下シ、其ノ足ヲZトスル。スルト此ノ状態ニ於テハ、船ノ重量W噸ハ重心Gヲ通ツテ眞下ニ働イテ居ル。他方船ニ働イテ居ル水ノ浮力ハ船ノ重量W噸ト同ジ力量デ、B'ヲ通ツテ眞上ニ働イテ居ルノデアル。從ツテ此ノ大サノ等シイ二ツノ力ガ正反對ノ方向ニGZノ間隔ヲ置イテ働ク事トナルノデ、一ツノ偶力ヲ生ジ其ノ結果ノ方向ニ船ヲ廻轉サセラル事トナツテ、船ヲモトノ位置(即チ直立状態)ニ引戻スノデアル。

此ノ船ヲモトノ位置ニ引戻スカヲ船ノ復原力ト稱スルノデアル。此ノ復原力ノ大サヲ表ハスニハ、W(船ノ排水量即チ船ノ重サ)トGZノ長サノ乘積ニテ表ハス。

$$\text{即チ } W \times GZ = W \times GM \times \sin\theta$$

ニテ表ハス事ガ出來ル。

「メタセンター」Mノ位置ハ船ノ線圖ガアレバ、計算ニ依ツテ求メル事ガ出來ルガ、重心Gノ位置ハ簡單ニシテ、然モ正確ニ計算デ求メル事ハ出來ナイ。ソコデ我々ハ傾斜試験ヲ行ツテGMノ長サヲ實驗ニ依ツテ求メ、M點ヨリ計リテ重心Gノ位置ヲ定メルノデアル。

## 二、傾斜試験ノ方法

サテ傾斜試験ヲ行フニハ、船ノ甲板上ニ豫メ置イテアル(試験用)重量物ヲ船ノ一方ノ舷カラ反對ノ舷ニ甲板ヲ横切ツテ動カシ船ヲ僅カニ傾ケテ其ノ時ノ傾斜角度ヲ測ルノデアル。

此ノ時測ルベキ主要ノ事項トシテハ、移動用重量物ノ重量、移動シタル距離、傾斜シタル角度、試験當時ノ船首・船尾ノ吃水、等ハ絶對ニ必要デアル。吃水ヲ測ラナケレバ其ノ時ノ船ノ重量ガ計算サレナイノデアル。

甲板上ヲ移動サセル重量物デ取扱ヒ易イノハ角型ノ鑄鐵デアルガ、何處デモ得ラレ易イノハ、石油ノ空罐ニ砂又ハ小砂利ヲ入レタモノデアル。コノ方ハ目方ノ加減モ自由ニ出來テ便利デア。移動物ノ重サハ一方ニ動カシタ時ニ、船ノ傾キガ角度ニシテ一度見當ノ程度デ充分デア。此ノ移動重量物ノ重サハ、各船ノ大サニ依リ豫メ計算ニ依ツテ求メル事ガ出來ル。(此ノ事ハ後ニ其ノ求メ方ト大體ノ重サノ表トヲ記載シテアル)移動重量物自身ノ重心ノ位置ハ豫メ重量物自身



ニ標記シテ置クノ要ガアル。然ラザレバ正確ナル距離ヲ移動サセル事ガ出来ナイ。

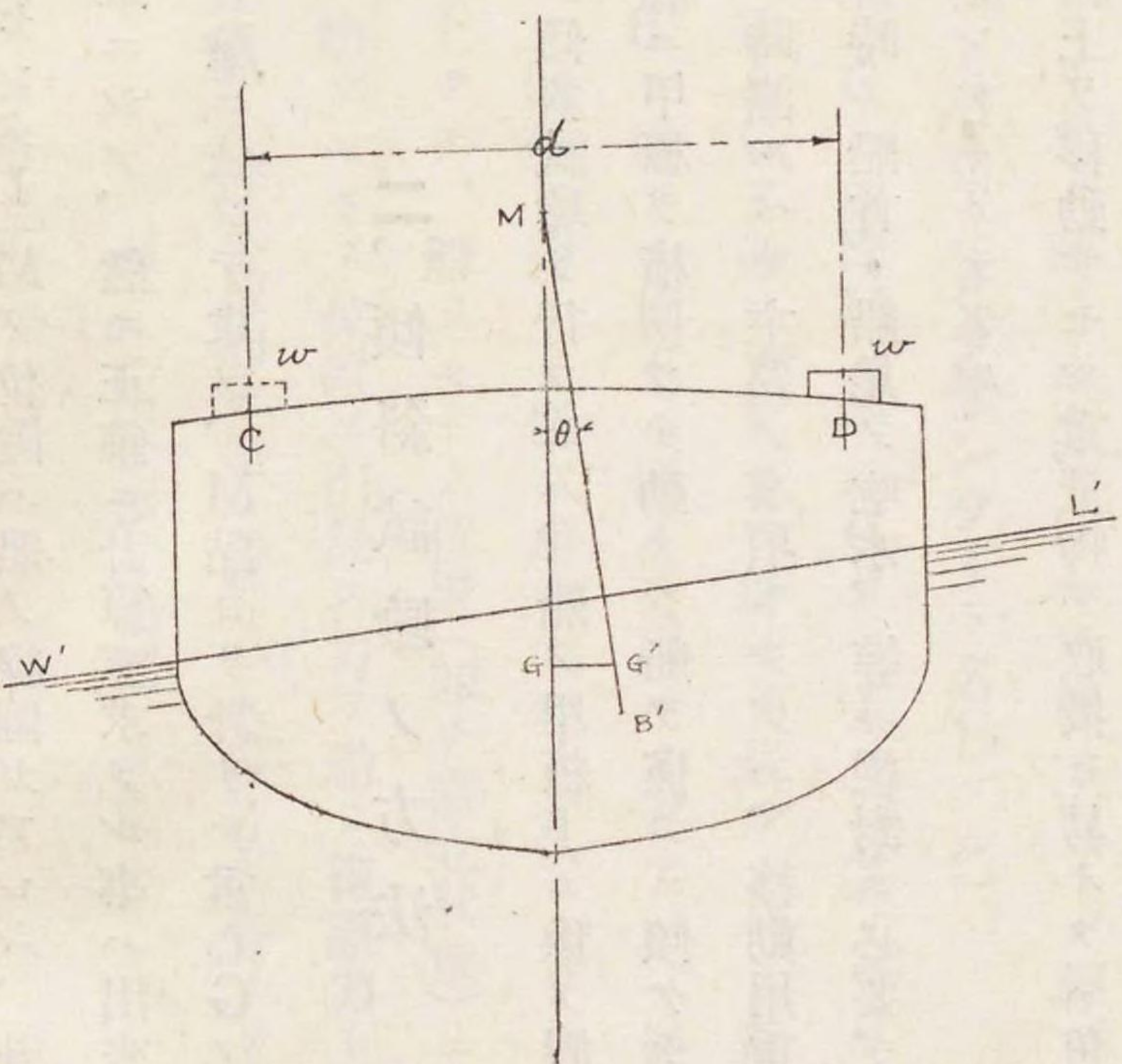
### 三、傾斜試験ニ依リGMヲ求メル計算式

(第二圖参照ノコト)

初メ甲板上ノC及Dノ位置ニアツタ重サ  
 $w$ ノ移動重量物ノ内、一方ノ舷Cニアルモ  
 ノヲ甲板上ヲ横切ツテ $d$ (單位メートル)ダ  
 ケ運搬シテ反對舷ノDト同様ノ位置ニ持ッ  
 テ來タトスル。スルト船ノ重心ハ重量物ノ  
 移動ノ爲メニ初メ $G$ ニアツタモノガ $G'$ ニ移  
 ル。船ガ角度 $\theta$ ダケ傾イテ静止ノ状態ニナ  
 ルノデアアルカラコノ傾イタ状態ニ於テノ船  
 ノ重心 $G'$ ハ浮力ノ中心 $B'$ ト同一垂線上ニア  
 レノデアアル。

$G'G'$ ノ距離ハ次ノ式ヲ求メル事ガ出来ル。

第二圖



$$GG' \times W = d \times w$$

故ニ  $GG' = \frac{d \times w}{W}$

然ルニ  $GG' = GM \times \tan \theta$  ナルヲ以テ

$$GM \times \tan \theta = \frac{d \times w}{W} \quad \text{ナリ}$$

故ニ  $GM = \frac{d \times w}{W \times \tan \theta} \dots \dots \dots (A)$

コノ(A)式ニ依リテ、GMヲ求メルコトガ出来ル。

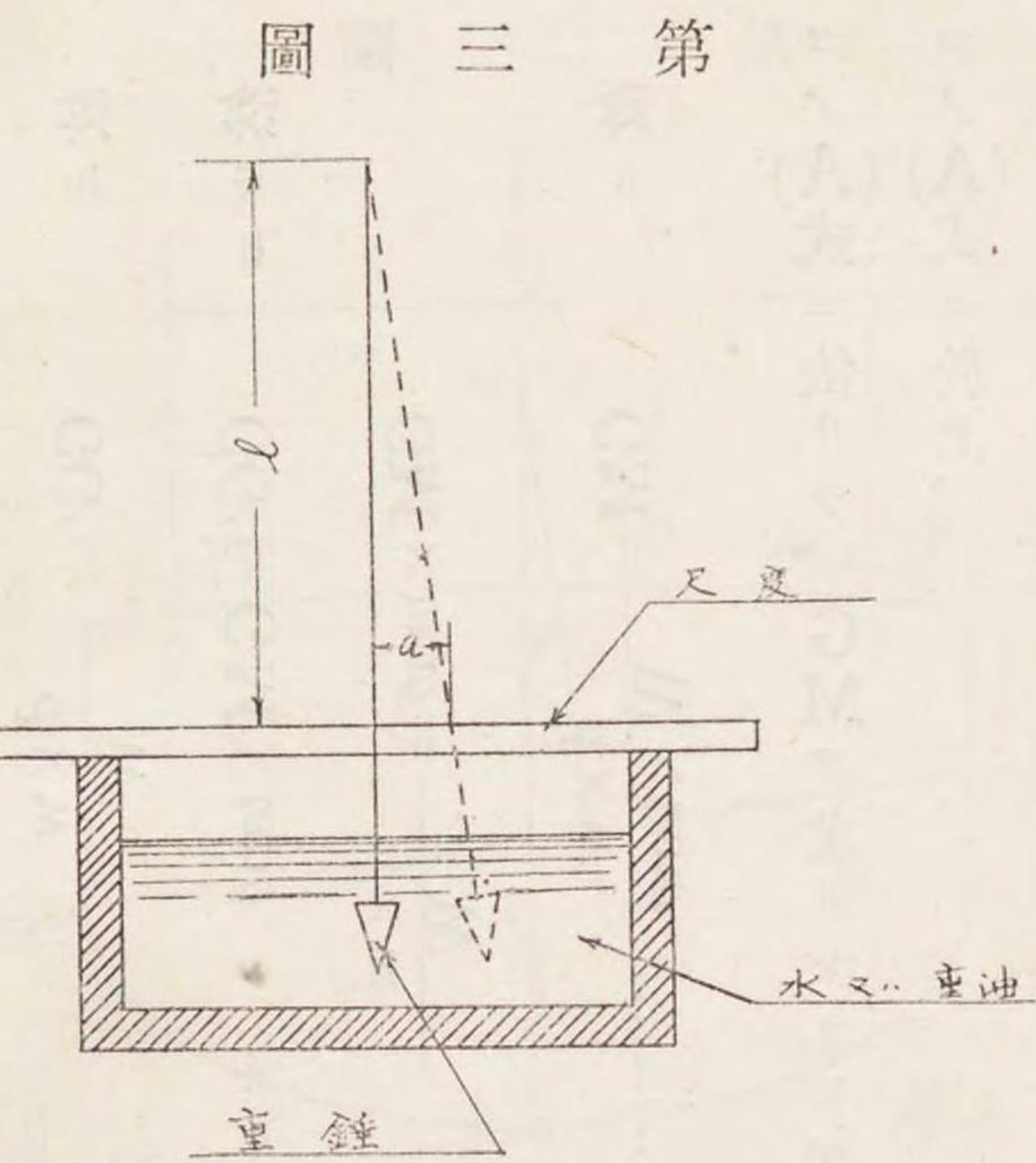
コノ(A)式ニ於テ、

- GM ..... 船ノ重心ト「メタセンター」トノ距離(單位メートル)
- w ..... 甲板上ヲ移動サセル重量物ノ重サ(單位噸)
- d ..... 右重量物ヲ動かス距離(單位メートル)
- W ..... 試験當時ノ本船ノ排水量(單位噸)
- $\theta$  ..... 傾斜角度(單位度)



注意 (1) 船ノ排水量ハ簡單ニハ求メラレナイカラ、地方廳ニテ行フ場合ニハ、農林省水産局ニテ算出スルコト、シテ、單ニ試驗時ノ船ノ前後部ノ吃水ヲ測ツテ報告スルダケニテ差支ヘナイ。

(2)  $\tan\theta$ ハ理論上ヨリハ  $\sin\theta$ ナルモ角度ガ小ナル時ハ實際ノ値ハ殆ンド同ジクシテ且ツ傾斜試驗ノ結果ヨリ  $\tan\theta$ ヲ使用スル方便ナルヲ以テ  $\tan\theta$ ヲ使用シアリ。



實際試驗スル場合ニハ、船ノ中心線ニテ魚艙トカ機關室トカ成ル可ク高サノ充分アル場所ニ重錘ヲ下ゲタ錘線ヲ吊シ、重錘ハ水又ハ重油中ニ漬ケ(第三圖參照)横ニ尺度ヲ備付ケ、船ガ直立状態カラ $\theta$ 度ダケ傾斜状態ニナツタ時ノ錘線ノ移動ヲ尺度ニヨリ讀ミ取り、コレヲa(單位耗)トシ、錘線ノ長サハ豫メ測リ知レルヲ以テ、之ヲl(單位耗)トスレバ、傾斜角 $\theta$ ノ正切ハaヲlニテ割ルコトニ依リ求メラル。

第三圖

即チ  $\tan\theta = \frac{a}{l}$  ナリ

尙實際ニハ重量ノ移動ハ一回ノミナラズ、數回引續キ行フヲ以テ、此ノ移動距離ノ測定ニハ尺度ヲ直接用フルコトヲ止メ、白木ノ角棒ヲ用意シテ、各靜止點ヲ鉛筆ニテ記入シ、試驗終了後此ノ記録點ノ變化距離ヲ物差シニテ讀ムノガ最モ便利デ、又最モ正確デアアル。

#### 四、移動重量物ノ重量ノ決メ方

傾斜試驗ニ用フル移動重量物ノ重量ヲ豫メ決メルニハ、前項(A)式ニ依ル。即チ

$$(A) \text{式} \dots\dots\dots GM = \frac{d \times w}{W \times \tan\theta}$$

$$\text{コレヲ書キ直スト } w = \frac{W \times GM \times \tan\theta}{d}$$

コノ式ニ於テ船ノ其ノ時ノ排水量ヲ豫想シ、GMヲ前例ニ依リ或ル大サニ考へ、船ノ幅ト甲板ノ模様カラ移動距離dヲ推定スル。傾斜角 $\theta$ ハソノ正切ガ普通〇・〇〇八位ヨリ〇・〇一五位ガ適當デアアル。



是等ヲ決メル事ニ依ツテ移動重量物ノ重量ヲ決定スルノデアアル。今一例ヲ示シテ移動重量算定ノ參考トスル。

○木造農林省標準一〇噸型漁船

總噸數一〇噸。重要寸法 長サ一三、二〇米。幅三、〇〇米。深サ一、三二米。

傾斜試驗當時ノ本船ノ排水量Wヲ一四噸ト推定ス。

GM ヲ〇・六米ト推定ス。

傾斜角θノ正切ヲ 〇・〇〇九ト假定シ

移動重量物ノ移動距離dヲ二、五米トスレバ

$$w = \frac{W \times GM \times \tan\theta}{d} = \frac{14 \times 0.6 \times 0.009}{2.5} = 0.030 \text{ 噸} = 30 \text{ 斤} = 8 \text{ 貫}$$

即チ此ノ場合デハ移動重量物ノ重量ハ三〇斤(八貫)トナル。普通試験デハ兩舷ニ二個ヅ、ヲ用フルカラ合計デハ四個一二〇斤(三二貫)トナル。二個ヅ、用フルハ正確ヲ期スル爲メデアアル。次ギニ農林省各種標準型木造漁船ニツキ移動重量物ノ適當ナル重量ヲ示スト次表ノ通りデアアル。

船型	傾斜試験時ノ船ノ概略排水量(噸)	船ノ幅(メートル)	移動重量物ノ概略移動距離(メートル)	移動重量物ノ適當推定重量	
				噸	貫
三・五	五・五	二・一〇	一・四〇	二〇	五・三〇〇
五・〇	七・五	二・三〇	二・〇〇	二〇	五・三〇〇
七・五	一〇・〇	二・四〇	二・〇〇	三〇	八・〇〇〇
一〇・〇	一三・〇	三・〇〇	二・五〇	三〇	八・〇〇〇
一二・五	一六・〇	三・二〇	三・〇〇	四〇	一〇・四〇〇
一五・〇	一九・〇	三・四〇	三・〇〇	四〇	一〇・四〇〇
一六・〇	二一・〇	三・七〇	三・〇〇	四〇	一〇・四〇〇
一九・五	二四・〇	三・七〇	三・五〇	四〇	一〇・四〇〇
二五・〇	二七・〇	四・〇〇	三・五〇	六〇	一六・〇〇〇
三二・〇	三〇・〇	四・三〇	四・〇〇	六〇	一六・〇〇〇
四〇・〇	三三・〇	四・五〇	四・〇〇	九〇	二二・〇〇〇
五〇・〇	三六・〇	四・八〇	四・〇〇	一〇〇	二七・〇〇〇
六〇・〇	四〇・〇	五・一〇	四・五〇	一五〇	四〇・〇〇〇
七〇・〇	四四・〇	五・四〇	五・〇〇	二〇〇	五〇・〇〇〇
八〇・〇	四八・〇	五・七〇	五・〇〇	二五〇	六〇・〇〇〇

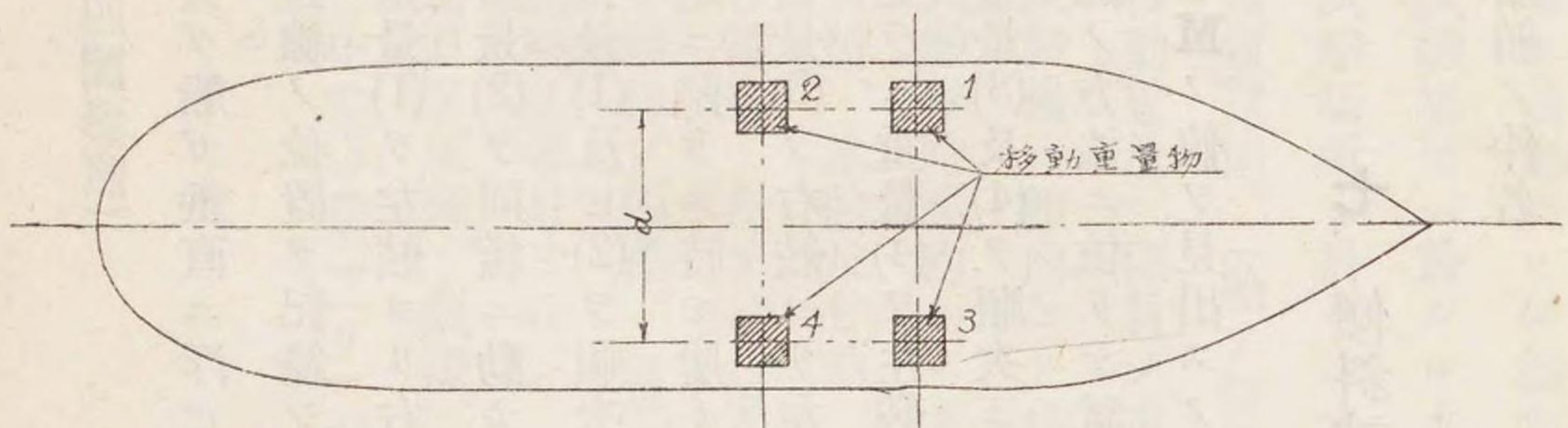


右ニ示ス位ノ重サノ移動重量物ヲ用ヒテ、傾斜試験ヲ行フトキハ傾斜角度ハ大體三五分（即チ六〇分ノ三五度）位ニナル。從ツテ試験スベキ船ノ大サ、幅ニ應ジテ前表ノ數字ヲ參考トシテ移動重量物ノ重サヲ豫メ決メル事ガ出來ル。

### 五、傾斜試験ヲ行フニ當ツテノ準備及ビ注意スベキ事項

- (イ)晴天、靜穩、滿潮時且ツ港内ニテハ、成ル可ク他船ノ通航ニ依ツテ起ル浪ノ影響ノ少イ處ヲ選ブコト。船渠内ヲ理想トスル。
- (ロ)若シ風ノアル日ニ行フ場合ハ、船首尾ヲ風ノ方向ニ向ケルコト。コレハ風ノタメニ船ガ横ニ傾クノヲ避ケル爲メデアル。
- (ハ)船體ハ正シク垂直ノ位置ニスルコト。
- (ニ)船ハ成ル可ク空荷状態トシ、若シ然ラザル場合ニハ「トリム」ハ成ル可ク船ノ常用状態ニシテ行フコト。
- (ホ)船首並ビニ船尾ヲ綱ニテ繋留シ、試験中錘線ノ動キヲ讀取ル場合ニハ必ヅ之レヲ弛メ、船ニ影響ノ無イ様ニスルコト。
- (ヘ)船内ノ滄水等移動水ヲ除去スルコト。

第 四 圖



- (ト)蒸汽罐水ヤ「タンク」内ノ水、油等ハ全ク空ニスルカ、又ハ完全ニ充滿サセルコト。
- (チ)倉庫品、其ノ他臨時ニ船内ニ在ル物品ハ船外ニ卸スコト。
- (リ)傾斜ノ爲メニ、動ク様ナ物ハ固ク結び付ケテ動カヌ様ニスルコト。
- (ヌ)船ニ乗ツテ居ル人ハ成ル可ク試験ニ必要ナ人ノミニシテ、他ハ下船サセルコト。又船上ニアル人ハ總テ試験中ハ船ノ中心線上一定位置ニ「マーク」シテ必ヅ其ノ内ニ居ル様ニスルコト。
- (ル)傾斜角ヲ測ル爲メニ、船内便宜ノ箇所ニ重錘二個或ヒハ三個ヲ吊シ、其ノ下部ニ横ニ直角ニ白木ノ角棒ヲ備ヘ之レニ傾斜時ノ各位置ヲ記入スルコト。
- (ヲ)重錘ハ重油又ハ海水ヲ入レタ槽中ニ浸シテ、振動スルノヲ防ギ、安定ヲ早クサセルコト。

### 六、傾斜試験ヲ行フ順序



(第四圖參照)

- (イ) 先づ船ガ垂直ニ浮ビ居ルヤ否ヤヲ確ム。若シ傾イテ居ル時ニハ、之ヲ直ス。船ガ安定シタル上錘線ノ位置ヲ記録シテ置ク。
- (ロ) 重量(1)ヲ左舷ヨリ右舷ニ移動ス。船ガ幾分傾キテ静止スルヲ待チ、錘線ノ移動ヲ記録ス。
- (ハ) 重量(2)ヲ同様ニ動カシ錘線ノ移動ヲ記録ス。
- (ニ) 重量(1)及ビ(2)ヲ順次ニ原位置ニ戻ス。此ノ時船ハ夫々原位置ニ歸ル筈デアルガ、實際ニハ原位置ニ歸ラヌ時モ屢々アルノデ、各錘線ノ實際ノ移動位置ヲ記録シ置ク。
- (ホ) 重量(3)ヲ右舷ヨリ左舷ニ移動ス。前ト同様其ノ時ノ錘線ノ移動ヲ記録ス。
- (ヘ) 更ラニ重量(4)ヲ左舷ニ移動シ、錘線ノ移動ヲ記録ス。
- (ト) 重量(3)及(4)ヲ順次ニ原位置ニ戻シ、夫々ノ時ノ移動ヲ記録スル。
- 上記ノ方法ニ依リテ試験スル時ハ、錘線ガ二個所ノ場合ニハ十六ノ記録ヲ得ル。之等ノ平均ヲ取りGMノ値ヲ見出スノデアル。

七、傾斜試験ノ際、記録、測定スベキ事項

(イ) 船舶ノ件名

- (ロ) 船ノ前部及ビ後部吃水。(單位メートル)
- (ハ) 試験場所ニ於ケル水ノ比重。(例 海水ハ普通一、〇二六位)
- (ニ) 試験場所ニ於ケル水流ノ状態。
- (ホ) 繫留状態。(船ノ位置及ビ岸壁等ニ繫留シタル時ノ「ロープ」ノ張り方)
- (ヘ) 移動重量、係員ノ重量及ビ其等ノ船内ニ於ケル位置。
- (ト) 試験後ニ船内ヨリ揚ゲ卸スベキ物品ノ名稱、重量及ビ其等ノ船内ニアル時ノ位置。
- (チ) 試験當時船内ニアリシ油、水ノ量ト其等ノ位置。
- (リ) 魚艙、氷艙及ビ油、水等ノ諸タンクノ容積ト其等ノ位置。
- (ヌ) 各錘線ノ長サ。(單位耗)
- (ル) 各錘線ノ偏差。(單位耗)
- (ヲ) 試験ノ年月日時。
- (ワ) 當日ノ天候、氣温、氣壓、水温、潮汐、風位及ビ風力。
- 右ノ中(ト)(チ)(リ)ハ夫々ノ物品、各油槽水槽等ノ諸量及ビ魚艙、氷艙等ノ容積ヲ明細ニ測リ記載スル。



八、傾斜試験ニ必要ナル人員

- 前部 錘線 一名
- 後部 錘線 一名
- 移動重量 二名乃至四名
- 指導者並ニ監督者 一名乃至二名
- 計 五名乃至八名

九、傾斜試験ノ實例

發動機付帆船第十一源榮丸傾斜試験成績

昭和十三年四月十日青森縣八戸港北防波堤ニ於テ、農林省四十五噸標準型漁船第十一源榮丸ノ傾斜試験ヲ行ツタ。コノ日ノ状態ヲ示スト、天候晴、南西ノ風四米、潮汐殆ンドナシ、海上ノ状態小波、氣温二十二度、氣壓七六五耗、海水ノ温度十二度、海水ノ比重一、〇二六

本船ノ主要項目ハ左ノ如シ。

- 一、船種 帆船

- 二、船質 木
- 三、甲板ノ層數 一層
- 四、帆裝 ケツチ
- 五、長サ(L) 二〇、二五米
- 六、幅(B) 四、五六米
- 七、深サ(D) 二、〇六米
- 八、總噸數 四八、一六噸
- 九、總積量 一三六、四三一立方米
- 十、上甲板下積量 一二九、九〇〇立方米
- 十一、純噸數 二五、一八噸
- 十二、機關ノ種類、數及馬力 セミヂーゼル機關一基一〇〇馬力(純馬力)
- 十三、推進器ノ種類及數 螺旋推進器一個
- 十四、造船所 八戸市
- 十五、進水年月日 昭和十三年三月
- 十六、所有者 青森縣八戸市夏堀源三郎

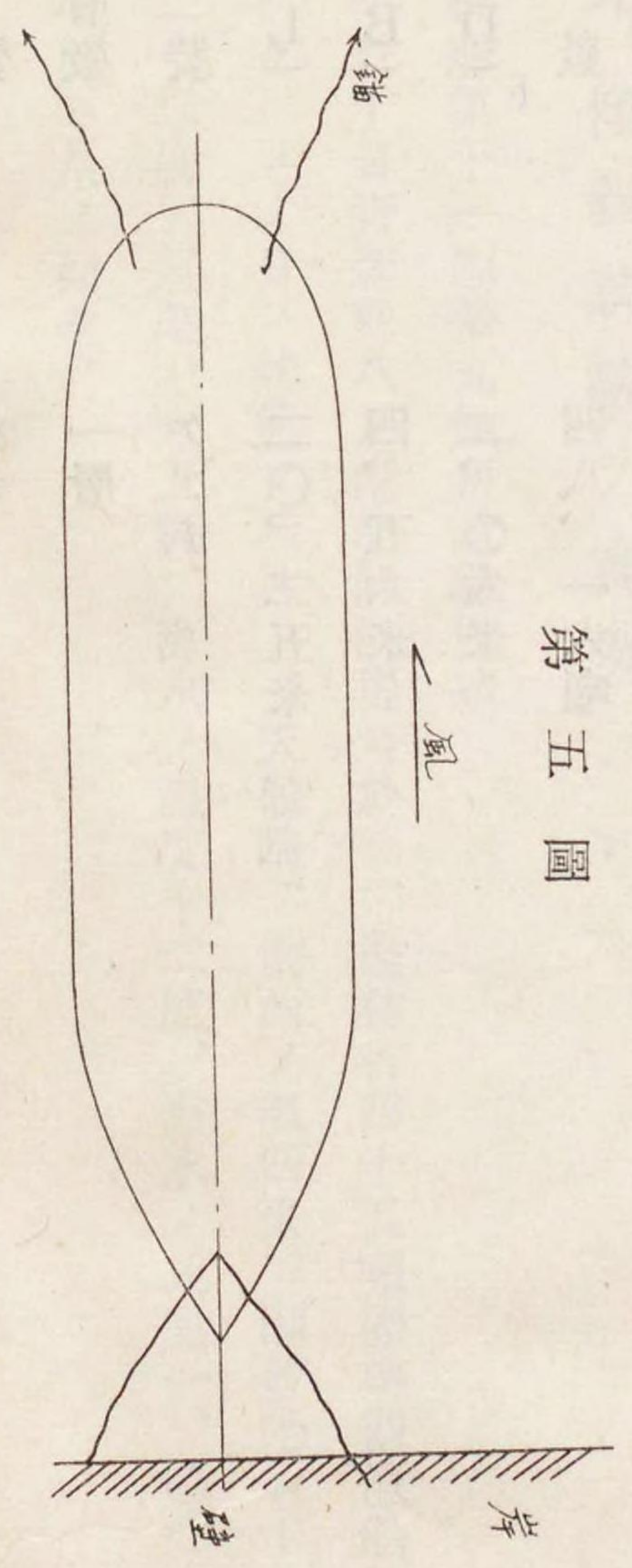


以下順序ニ從ヒ傾斜試驗成績ヲ記載スルガ、數字ヲ多ク用フル都合上横書ニスル。  
尙單位ノ符號ヲ一括シテ説明スルト左ノ如シ。

- m .....メートル、米
- cm .....センチメートル、厘
- mm .....ミリメートル、耗
- T .....トン、噸
- kg .....キログラム、匁
- mT .....メートルトン、米・匁

1. 繫船方法

第五圖



2. 本船ノ状態

船體、機關、艦裝、屬具  
漁艇

何レモ完成

完成、船外ニアリ

船内ニアリタル人員ハ下記ノ通り

合計 18 名デアアル。

中央部甲板上	8 名
第一魚艙内	2 名
最船首部甲板上	2 名
最船尾部甲板上	2 名
賄室内	2 名
船尾船員室内	2 名

以上

3. 移動重量及傾斜角度測定裝置

移動重量トシテハ木箱ニ小石ヲ入レタモノヲ使用シタ。ソノ重サハ一個 0.70935 (93.5kg), 約 25貫) デアリ、コレヲ四個使用シタカラ重サノ合計ハ、0.7374 (374kg, 約100貫) トナル。移動距離ハ、3.500 ニシタ。



傾斜角度測定用錘線ハ第一魚艙内ト船尾船員室内トノ二ヶ所ニ取付ケ、長サハ夫々1.<sup>m</sup>750、1.<sup>m</sup>400デアラル。重錘ハ水槽ニ浸シテ錘線ノ動搖ヲ防止スル装置ニシタ。

4. 試験當時ノ吃水及排水量

傾斜試験當時ノ本船ノ吃水ハ

船首部	0. <sup>m</sup> 650
船尾部	2. <sup>m</sup> 200
平均	1. <sup>m</sup> 425

「トリム」(即チ船ノ前後部吃水ノ差)ハ 1.<sup>m</sup>550

然レドモ本船ハ常備状態ニ於テ 0.<sup>m</sup>500 ノ「トリム」ヲ有スルカラ、計算ニ必要ナル本船ノ

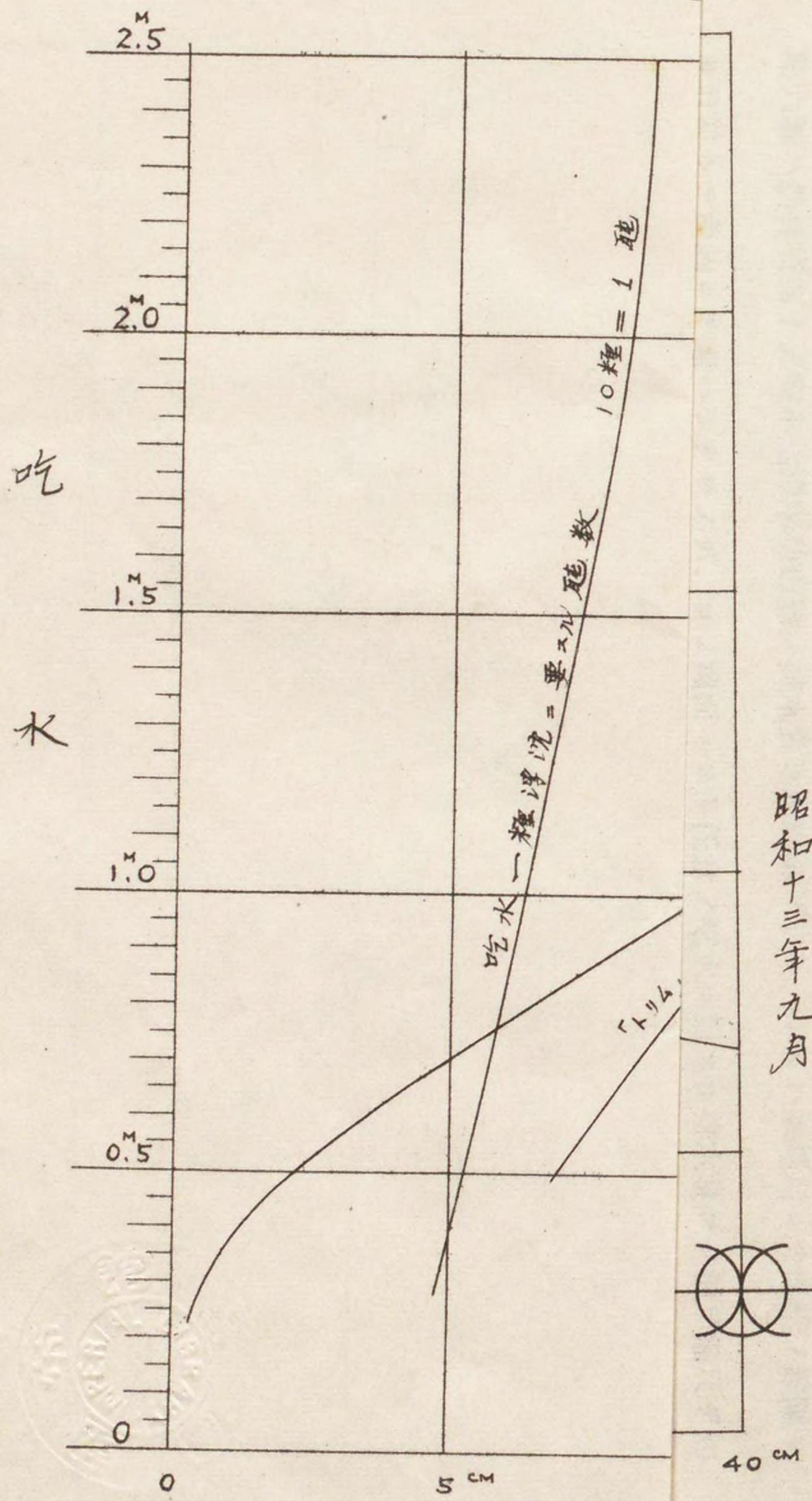
「トリム」ハ

$1.550 - 0.500 = 1.<sup>m</sup>050 = 105<sup>mm}</sup> トナル。$

注意：「トリム」ハ一般ニ「トリム・バイ・ザ・スターン」(即チ船尾ノ方が深ク沈ソデキル状態)デアルカラ、此處デハ「トリム・バイ・ザ・スターン」トシテ説明シテ行ク。

上記ノ平均吃水 1.<sup>m</sup>425 ヨリ排水量等曲線圖上(第六圖参照)ニ於テ當時ノ排水量、浮揚面

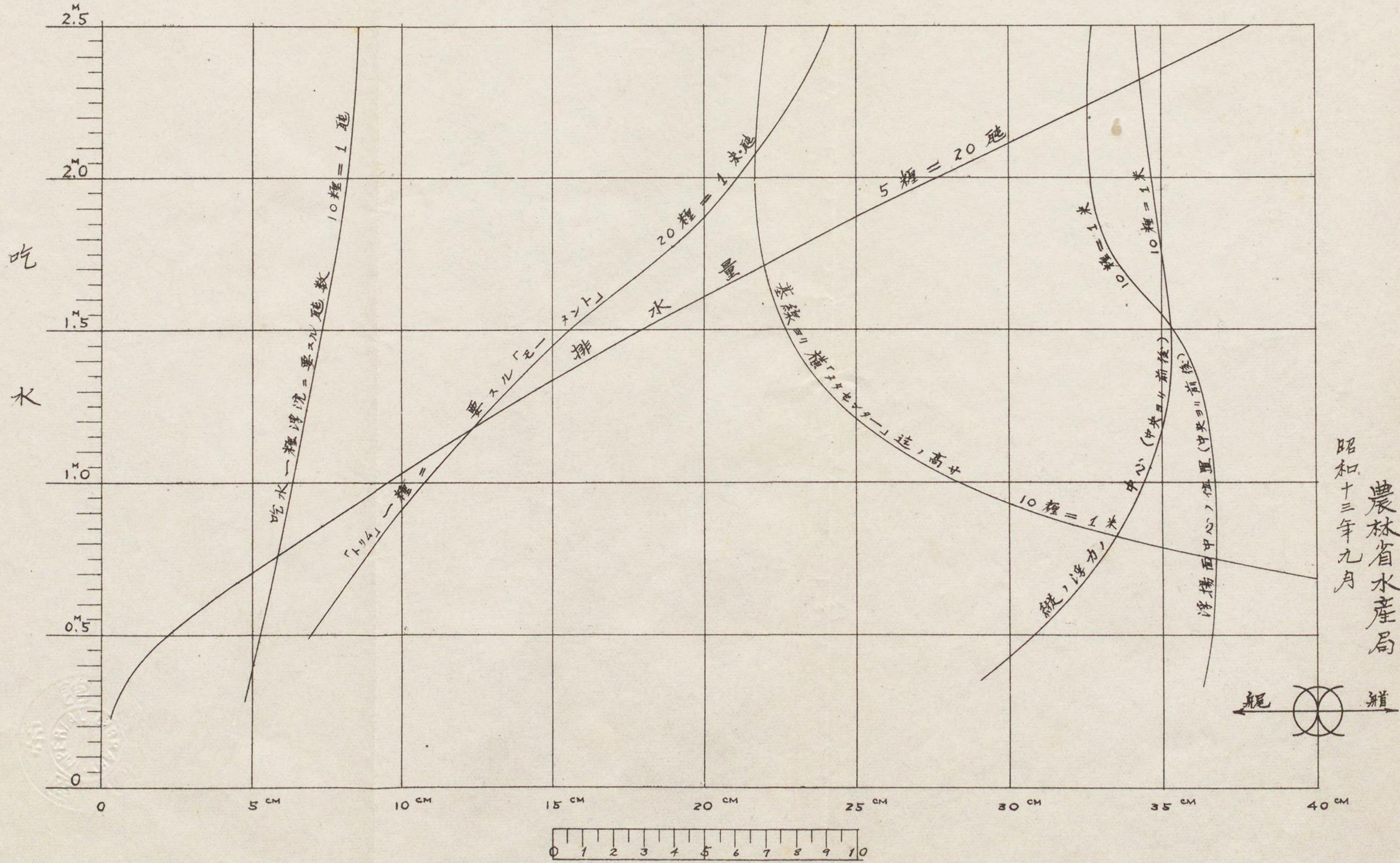
農林省水産局  
昭和十三年九月





農林省四十五噸木造標準型漁船(第十一源榮丸)

第六圖 排水量等曲線圖

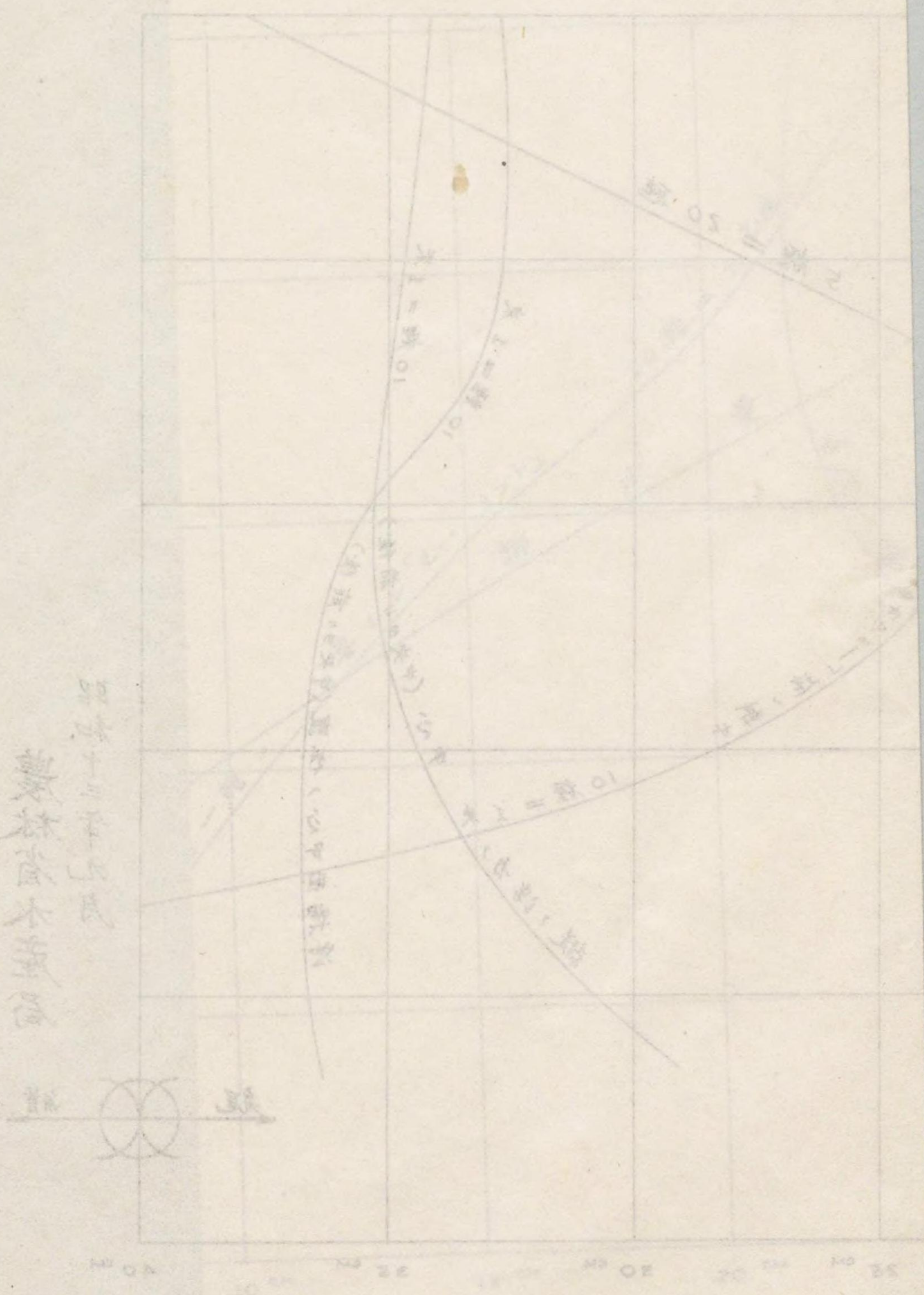


注意：「トリアム」ハ一般ニ「トリアム・バイ・ザ・スターン」(即チ船尾ノ方が深ク沈ソデキル状態)デアルカラ、此處デハ「トリアム・バイ・ザ・スターン」トシテ説明シテ行ク。  
上記ノ平均吃水 1.5<sup>m</sup>425 ヨリ排水量等曲線圖上(第六圖参照)ニ於テ當時ノ排水量、浮揚面

「トリアム」ハ  
1.550—0.500 = 1.050 = 105<sup>m</sup> トナル。  
然レドモ本船ハ常備状態ニ於テ 0.500 ノ「トリアム」ヲ有スルカラ、計算ニ必要ナル本船ノ「トリアム」ハ  
1.550



第六圖 排水量曲線圖



第六圖ハ農林省四十五噸木造標準型漁船ノ排水量等曲線圖デアル。コレハ水産局ニテ同船ノ線圖ヨリ計算シテ曲線ニテ表ハシタモノデ、コノ圖面ニヨリ任意ノ吃水ニ對スル排水量ソノ他ヲ縮尺デ知ルコトガ出來ル。

中心ノ位置(中央ヨリ前後)、吃水一糎浮沈ニ要スル噸數、ヲ知ルコトガ出來ル。即チ平均吃水ニ對スル  
 排水量 66.120  
 浮揚面中心ノ位置 0.42 (中央ヨリ後方)  
 吃水一糎浮沈ニ要スル噸數 0.772  
 船ノ長さ 20.25  
 然シテ「トリム」ガアル爲メニ増加スベキ噸數ハ次式ノ如ク計算シテ出ス。



即チ (吃水一噸浮沈ニ要スル噸數) × (浮揚面中心ノ位置)  

$$\times \frac{(\text{「トリム」}) \times \frac{1}{(\text{船ノ長さ})}}{1}$$

$$= 0.72 \times 0.42 \times 105 \times \frac{1}{20.25} = 1.7568$$

故ニ 本船ノ排水量 = 66.20 + 1.568 = 67.768

注意：コノ場合浮揚面中心ノ位置ガ中央ヨリ前方ニアルトキハ「トリム」ガアルト、排水量ハ減少スル。

次ニ海水ノ比重ニ對スル訂正ガ必要トナルガ本船ノ場合ハ海水ノ比重ハ標準状態デアルカラ排水量ノ訂正ハ要ラナイ。從ツテ傾斜試験當時ノ本船ノ排水量 = 67.777 デアル。

次ギニ縦ノ重心ノ位置ノ算定デアルガ、コレニ必要ナル項目トシテハ「トリム」一噸ニ要スル「モーメント」、「トリム」、排水量、縦ノ浮力ノ中心ノ位置(中央ヨリ前後)、ノ四項デアル。

コノ内「トリム」及排水量ハ既ニ分ツテキルカラ、他ノ二項ヲ排水量等曲線ヨリ求マル。即チ

「トリム」一噸ニ要スル「モーメント」  $0.736$   
 「トリム」  $105$   
 排水量  $67.777$

縦ノ浮力ノ中心(中央ヨリ後方)  $0.747$

而シテ、縦ノ浮力ノ中心(B)ト船ノ重心(G)トノ距離BGハ次式ニテ求マルコトガ出來ル。

即チ 
$$\frac{(\text{「トリム」一噸ニ要スル「モーメント」}) \times (\text{「トリム」})}{(\text{排水量})}$$

$$= \frac{0.736 \times 105}{67.77} = 1.14$$

從ツテ船ノ中央ヨリ船ノ重心マデノ距離ハ  $1.14 + 0.47 = 1.61$

即チ縦ノ重心ノ位置 = 1.61 (中央ヨリ後方)

注意：上ノ式ニ於テ縦ノ浮力ノ中心ガ中央ヨリ前方ニアル時ハ、負ノ符號ニナル。

5. 錘線移動及正切ノ實測讀取

回数	重量移動状態		錘線位置		同	
	左舷	右舷	讀取	差	讀取	差
0	●●	○○	左 mm 0	右 mm 0	左 mm 0	右 mm 0



1	●	○○○	21	21	16	16
2		●○○○	42	21	31	15
3	●	○○○	20	22	14	17
4	●●	○○	01	19	01	13
5	○○●●	○	19	20	13	14
6	○○●●●		40	21	28	15
7	○○●●	○	19	21	14	14
8	●●	○○	01	18	0	14
合計			163	20.4	118	14.8
平均			20.4	mm	14.8	mm

$$\text{正切} \quad \frac{20.4}{1750} = 0.0117 \quad \frac{14.8}{1400} = 0.0106$$

註、上ノ式ニ於ケル 1750<sup>mm</sup>、1400<sup>mm</sup> ハ夫々錘線ノ長サデアル。

$$\text{上記正切ノ平均} \quad \frac{1}{2}(0.0117 + 0.0106) = 0.01115$$

### 6. 試験當時ノ重心點及GMノ高サ

以上ノ傾斜試験ノ結果ヨリ、試験當時ノ本船ノ重心點及GMノ高サヲ算出スルコトガ出來ル。

排水量	67.777
移動重量	0.70935
移動距離	3. <sup>m</sup> 50
正切	0.01115

$$\begin{aligned} \text{重量移動ニ依ル「モーメント」} &= (\text{移動重量}) \times (\text{移動距離}) \\ &= 0.0935 \times 3.50 = 0.<sup>m</sup>32725 \end{aligned}$$

故ニ試験當時ノ「GM」ノ高サハ



$$\frac{\text{(重量移動=依ル「モーメント」)}}{\text{(排水量)}} \times \frac{1}{\text{(正切)}}$$

$$= \frac{0.32725}{67.77} \times \frac{1}{0.01115} = 0.^m433$$

從ツテ試験當時ノ基線ヨリ重心迄ノ高サ(KG)ヲ知ルニハ先ヅ基線ヨリ横「メタセンター」迄ノ高サ(KM)ヲ排水量等曲線上ニテ讀ミトル。夫レニハ平均吃水 1.^m425 トシテ曲線ヲ讀ムバ知ル事ガ出來ル。

次ニ下記ノ式ニヨリKGガ出テ來ルノデアル。

$$KG = KM - GM$$

$$KM = 2.^m310$$

$$GM = 0.^m433$$

$$\text{故ニ } KG = 2.310 - 0.433 = 1.^m877$$

即チ試験當時船ノ重心點ハ船ノ基線上 1.^m877 上ニアル事ガ知レルノデアル。

7. 空荷状態ニ於ケル重心點ノ位置算出

項	目	重	重心點ノ位置 (中央ヨリ)		「モーメント」		KG (基線上ヨ リノ高サ)	「モーメント」
			前	後	前	後		
試験當時ノ本船	船	67.77 <sup>m</sup>	—	1.61 <sup>m</sup>	—	109.110 <sup>mT</sup>	1.877 <sup>m</sup>	127.204 <sup>mT</sup>
船ニ積載スベキモノ:	船	0.188	1.50	—	0.282	—	2.35	0.442
大馬船	船	0.097	7.80	—	0.757	—	2.80	0.272
船ヨリ揚卸スベキモノ:	—	—	—	—	—	—	—	—
小出	油	- 0.095	—	5.40	—	- 0.513	2.85	- 0.271
水	燃	- 0.845	—	9.45	—	- 7.985	3.50	- 2.958
貯室	ノ	- 0.300	—	7.10	—	- 2.130	3.05	- 0.915
炭	石	- 0.112	—	7.40	—	- 0.829	2.85	- 0.319
米	炭	- 0.374	1.15	—	- 0.430	—	2.35	- 0.879
移動	重	- 0.450	1.80	—	- 0.810	—	2.85	- 1.283
試験試験當時ノ人員	A	- 0.112	4.20	—	- 0.470	—	0.85	- 0.095
"	B	- 0.115	8.90	—	- 1.024	—	3.70	- 0.426
"	C	- 0.115	—	—	—	—	3.40	- 0.391
"	D	- 0.115	—	9.10	—	- 1.047	2.95	- 0.325
"	E	- 0.110	—	6.95	—	- 0.765	1.45	- 0.160
"	F	- 0.110	—	7.95	—	- 0.875	—	—



合	計	65.32	—	—	- 1.695	- 94.966	—	119.896
前後「モーメント」ノ差						96.661		

114

排水量等曲線ヨリ排水量 65.132 = 相當スル吃水ヲ求ムルト 1.41 = ナル。又コノ平均吃水 1.41 = 相當スル横「メタセンター」ノ高サヲ求ムルト 2.32 = ナル。

$$\frac{119.896}{65.32} = 1.836 \quad \text{デアルカラ}$$

一方重心ノ高サハ GMノ高サハ

$$GM = KM - KG = 2.32 - 1.836 = 0.484 \quad \text{トナル。}$$

$$\frac{96.661}{65.32} = 1.48 \quad \text{(中央ヨリ後方)}$$

一方平均吃水 1.41 = 相當スル浮揚面中心ノ縦ノ位置、縦ノ浮力ノ中心ノ位置及ビ「トリム」一糎ニ要スル「モーメント」ヲ求ムルト

浮揚面中心ノ縦ノ位置	0.41	(中央ヨリ後方)
縦ノ浮力ノ中心ノ位置	0.47	(中央ヨリ後方)
「トリム」一糎ニ要スル「モーメント」	0.73	ナリ。

從ツテ縦ノ重心點ヨリ縦ノ浮力ノ中心迄ノ距離ハ

$$1.48 - 0.47 = 1.01$$

注意：コノ式ニテ、縦ノ浮力ノ中心ノ位置ガ中央ヨリ前方ニアル時ニハ正ノ符號ニナル。

$$\text{「トリム」ヲ起ス「モーメント」} \quad 65.32 \times 1.01 = 65.97$$

$$\text{從ツテ「トリム」ハ} \quad \frac{65.97}{0.73} = 90.63 = 0.90$$

故ニ空荷状態ニ於ケル吃水ハ

$$\text{前部吃水} = (\text{平均吃水}) - (\text{「ノルマルトリム」ノ半分})$$

$$- (\text{「トリム」}) \times \frac{(\text{船ノ長サノ半分}) + (\text{浮揚面中心ノ船ノ中央ヨリノ距離})}{(\text{船ノ長サ})}$$

$$\text{後部吃水} = (\text{平均吃水}) + (\text{「ノルマルトリム」ノ半分})$$

$$+ (\text{「トリム」}) \times \frac{(\text{船ノ長サノ半分}) - (\text{浮揚面中心ノ船ノ中央ヨリノ距離})}{(\text{船ノ長サ})}$$

注意：コノ式ニテハ浮揚面中心ノ位置ガ船ノ中央ヨリ前方ニアル時ハ、分數ノ分子ノ項ノ符號ガ反對ニナル。



即ち

$$\text{前部吃水} = 1.41 - 0.25 - \left( 0.90 \times \frac{10.125 + 0.41}{20.25} \right) = 0.{}^m69$$

$$\text{後部吃水} = 1.41 + 0.25 + \left( 0.90 \times \frac{10.125 - 0.41}{20.25} \right) = 2.{}^m09$$

$$\text{平均吃水} = \frac{1}{2} (0.69 + 2.09) = 1.{}^m39$$

$$[\text{トリス}] = 2.09 - 0.69 = 1.{}^m40$$

8. 満載状態ニ於ケル重心點ノ位置算出

項	目	重量	重心點ノ位置 (中央ヨリ)		[モーメント]		KG	[モーメント]
			前	後	前	後		
空荷	状態ノ本船	65.32 <sup>m</sup>	—	—	—	—	1.836 <sup>m</sup>	119.896 <sup>mT</sup>
燃	料	1.450	—	—	—	—	1.45	2.103
燃	第一油槽	2.400	—	—	—	—	1.55	3.720
燃	第二油槽	1.000	—	—	—	—	1.75	1.750
燃	第三油槽	—	—	—	—	—	—	—

燃	第四油槽	1.450	—	—	—	—	1.45	2.103
燃	第五油槽	2.400	—	—	—	—	1.55	2.720
潤	滑油	0.210	—	—	—	—	3.30	0.693
飲	料	0.012	—	—	—	—	2.75	0.033
飲	水	1.450	—	—	—	—	3.60	5.220
炊	用炭	0.410	—	—	—	—	3.10	1.271
組	員室	0.335	6.30	—	2.077	—	1.50	0.503
員	室	0.540	—	7.35	—	3.969	1.52	0.821
機	室	0.075	—	2.20	—	0.165	3.95	0.296
機	室	0.110	—	6.95	—	0.765	2.95	0.325
機	室	0.120	—	4.80	—	0.576	1.35	0.162
水	室	5.000	4.60	—	23.000	—	1.15	5.750
漁	具	1.850	3.30	—	6.105	—	1.20	2.220
餌	料	0.375	—	—	—	—	1.10	0.413
食	品	0.225	—	—	—	—	3.15	0.709
食	類	0.480	8.00	—	3.840	—	1.35	0.648
合	計	85.212	—	—	35.022	157.593	—	152.356



前後「モーメント」ノ差	122.571 <sup>mT</sup>	
-------------	-----------------------	--

以下空荷状態ノ場合ト全然同様ノ方法ニテ行フ。即チ排水量 85.121 ≒ 相當スル吃水ヲ排水量等曲線ヨリ求メ、後必要ナル事項ヲコノ吃水ニ相當スル様ニ求メラ行クノデアアル。

排水量	85.121
平均吃水	1.68
横「メタセンター」ノ高サ(KM) 2.21	
重心ノ高サ(KG)	$\frac{152.356}{85.21} = 1.788$
GMノ高サ	KM-KG = 2.21 - 1.788 = 0.422
又縦ノ重心ノ位置ハ	$\frac{122.571}{85.21} = 1.44$ (中央ヨリ後方)

一方平均吃水 1.68 ≒ 相當スル浮揚面中心ノ縦ノ位置、縦ノ浮力ノ中心ノ位置、「トリム」一種ニ要スル「モーメント」、ヲ求メルト

浮揚面中心ノ縦ノ位置 0.61 (中央ヨリ後方)

縦ノ浮力ノ中心ノ位置 0.49 (中央ヨリ後方)

「トリム」一種ニ要スル「モーメント」 0.89

從ツテ縦ノ重心點ヨリ縦ノ浮力ノ中心迄ノ距離ハ

$$1.44 - 0.49 = 0.95$$

「トリム」ヲ起ス「モーメント」 85.21 × 0.95 = 80.795

從ツテ「トリム」ハ  $\frac{80.95}{0.89} = 91^m = 0.91$

滿載状態ニ於ケル吃水ハ

$$\text{前部吃水} = 1.68 - 0.25 - \left( 0.91 \times \frac{10.125 + 0.61}{20.25} \right) = 0.95$$

$$\text{後部吃水} = 1.68 + 0.25 + \left( 0.91 \times \frac{10.125 - 0.61}{20.25} \right) = 2.36$$

$$\text{平均吃水} = \frac{1}{2} (0.95 + 2.36) = 1.655$$

$$\text{「トリム」} = 2.36 - 0.95 = 1.41$$

9. 乾舷ノ高サノ求メ方



船ノ深サ 2.<sup>m</sup>06  
 龍骨ノ深サ 0.<sup>m</sup>29  
 木甲板ノ厚サ 0.<sup>m</sup>06  
 合計(乾舷甲板迄ノ深サ) 2.<sup>m</sup>41  
 満載吃水 1.<sup>m</sup>655  
 乾舷ノ高サ 0.<sup>m</sup>755

小形船ノ測度



船ノ噸數(積量)ハ課税ノ標準トナリ、船ノ資格ヲ定メ、價額、能力等ヲ表ハス基本トナルカラ測度ハ精確ニセネバナラス。殊ニ總噸數二〇噸附近デハ、二〇噸未滿デモ以上ニ測ル時ハ船舶法ノ適用ヲ受クルコトニナリ、特ニ注意セネバナラス。長サ二〇メートル未滿ノ船ノ測度ニ當ツテハ甲板下積量ハ長サ、幅、深サ丈測レバヨイノデ簡單デ誤差ノ少ナイ方法デアアル。此レカラ記述スル所ノ船ノ測度方法ハ長サ二〇メートル未滿ノ小形船ノ測度方法デアアル。

### 一、積量、總噸數、純噸數

船ノ積量ト言フノハ、船ノ容積ヲ言フノデアツテ立方メートルヲ單位トス。  
總噸數ハ船ノ總積量ヲ噸ヲ單位トシテ表ハシタモノデ、一立方メートルノ積量ヲ〇・三五三噸トス。  
純噸數ハ總噸數カラ機關室等船ノ運航ニ必要ナル場所ノ噸數ヲ控除シタ残りノ部分ノ噸數ヲ示スモノデアアル。

### 二、測度用品

檢査手帖、卷尺、折尺、鉛筆、白墨等。



検査手帖ハ農林省水産局ヨリ各府縣廳當テ配付サレテアルカラ、船ノ各部分ノ寸法ヲ測ツタ時、直チニ其ノ値ヲ手帖ノ相當欄ニ書キ入レル。斯ウスル事ハ便利デアルバカリデナク、誤リヲ防グニ役立つモノデアル。卷尺、折尺ハ單位糎ノモノヲ用フル。

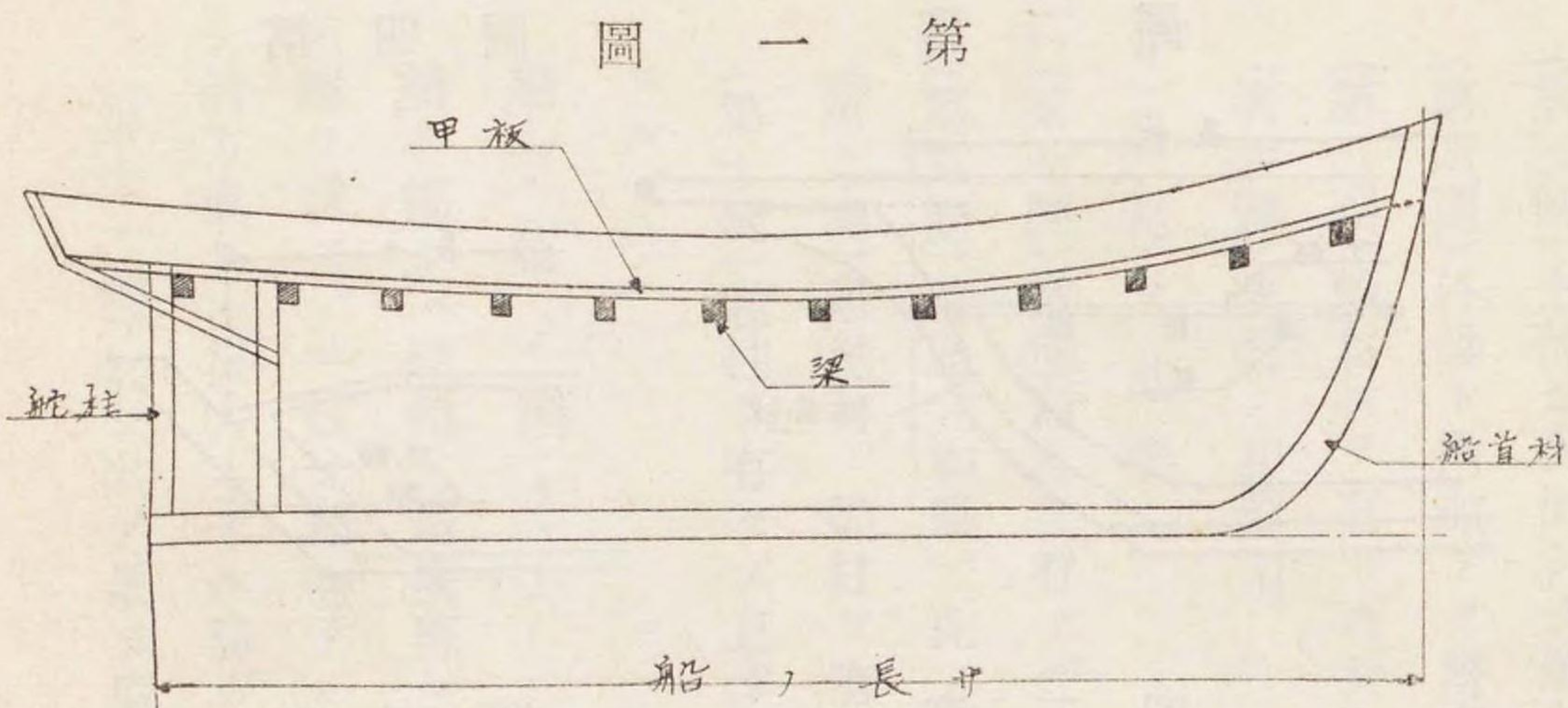
### 三、卷尺ノ使用法ト寸法ノ讀ミ方

實測ノ際、測度主任者ガ自身卷尺ヲ使ヒナガラ、其ノ讀ミヲ手帖ニ記入スル事ハ、非常ニ面倒デアリ、又時間モカ、ルカラ、船員又ハ手傳人ニ卷尺ヲ持タセテ測ラセルガ便利デアル。

卷尺ハ其ノ目盛ハ普通布製ノ部分カラ始マラナイデ、金物ノ先端カラ始マルモノデアルカラ、使用ニ際シテハ、拇指ヲ金物ニ差シ込ミ、之ヲ測度セントスル場所ノ一端ニ當テ、用フ。測度スベキ場所ノ長サトハ船ノ長サニ沿ツテ採ツタ寸法ヲ云ヒ、此ノ長サヲ最初ニ測リ、以下幅、深サ又ハ高サノ順序ニ測ル。之ハ検査手帖ニ其ノ寸法ヲ記入スルノニ手順ガ宜シイ爲メデアル。寸法ノ單位ハ糎マデ測リ、以下四捨五入スル。

### 四、實測

先ヅ最初ニ測ルベキモノハ、船ノ長サ、幅、及ビ深サデアル。コノ三ツノ寸法ハ船ノ甲板下又



第一圖

ハ舷端以下ノ積量ヲ決定スル處ノ要素デアリ、又同時ニ船鑑札ニ記載スベキ寸法デアルカラ、特ニ注意シテ正確ニ測ル必要ガアル。

#### (一) 船ノ長サノ測リ方

船ノ長サトハ上甲板梁上(甲板ノ下面)ニ於テ、船首材ノ前面ヨリ推進器孔ヲ有スル船ニ在リテハ、舵柱ノ後面マデ(第一圖)推進器孔ヲ有セザル船又ハ双螺旋船ニ在リテハ、船尾材ノ後面マデノ水平距離ヲ言フ。

全通甲板ヲ有セザル船ニテハ(ツマリ一小部分ニノミ甲板ノアル様ナ船)舷側外板ノ上面(即チ上小縁ノ下面、外小縁ノ上面)ヲ上甲板梁ノ上面ト看做ス。

以下圖ニ於テ色々ノ形ノ船首、船尾ニ於ケル船ノ長サヲ測ル基點ヲ示ス。

#### (イ) 船首ノ基點

(第二圖)農林省標準型漁船ノ如キ船首材ヲ有スル場合。

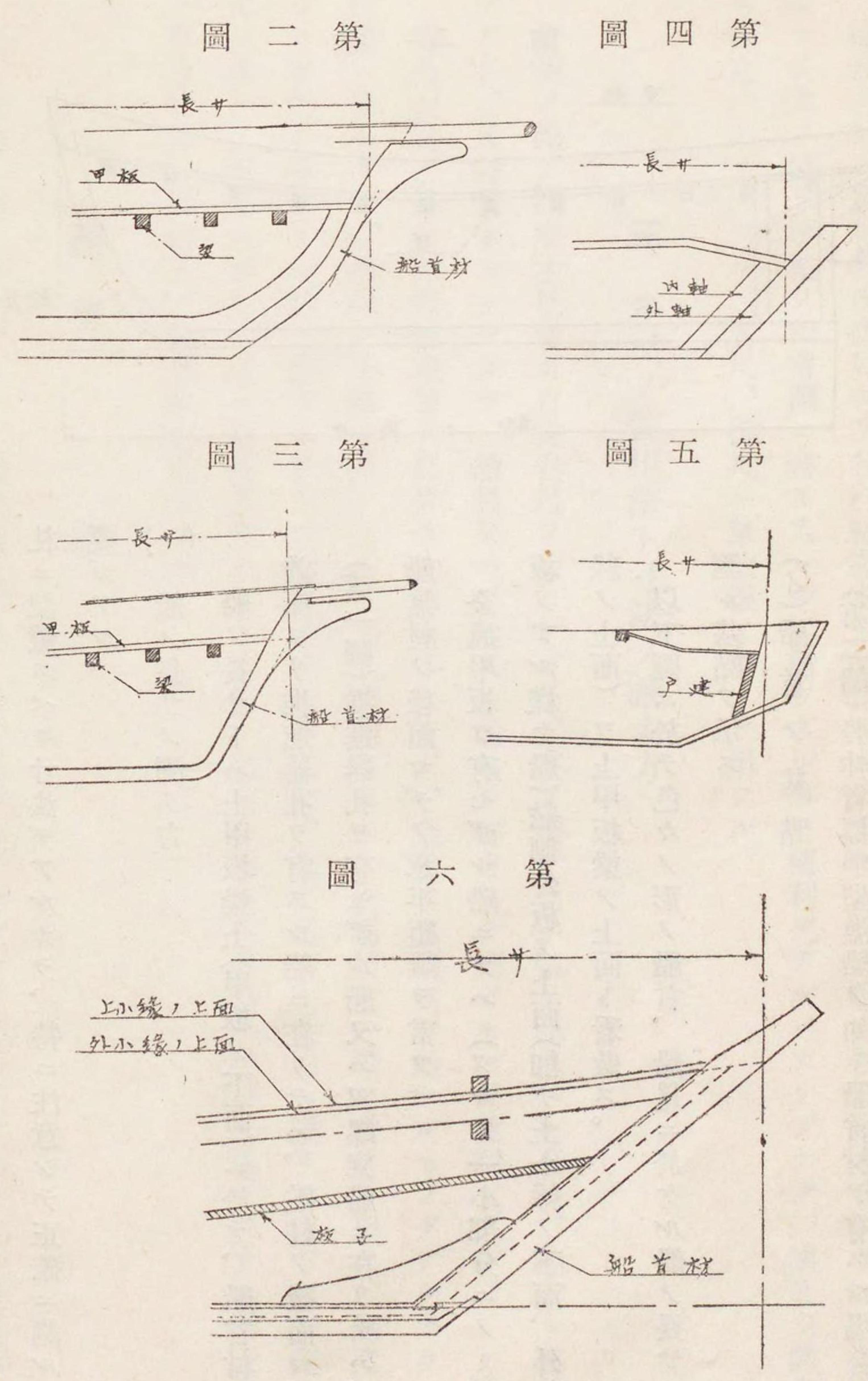


(二) 船ノ幅ノ測リ方

船ノ幅トハ船體ノ最廣部ニ於テ、肋骨ノ外面カラ外面マデ(外板ノ内面カラ内面マデ)ノ水平距離ヲ言フ。一般ノ船ニテハ、船體ノ最廣部ハ船ノ長サノ中央部デアアルガ、場合ニ依ツテハ少シ前方或ヒハ後方ニアアル時ガアル。其ノ時ハ其ノ最モ廣イ所ニテ測ツテ船ノ幅トスルノデアアル。(第十一圖)然シ其ノ最モ廣イ部分ニテ、ドノ邊ガ確カニ最廣部ナリト斷定スル事ハ出來ナイ

(ロ) 船尾ノ基點

- (第三圖) 上部ガ突出シタ船首材ヲ有スル場合。
- (第四圖) 外軸ト内軸トヲ併有スル場合。
- (第五圖) 船首材ヲ有セズシテ、戸建ヲ有スル場合。
- (第六圖) 普通ノ和船型。
- (第七圖) 推進器孔ヲ有セザル船又ハ双螺旋船。
- (第八圖) 普通ノ和船。此ノ場合甲板ハ一部分ノミニ在ル。
- (第九圖) 船尾材、舵柱ヲ有セズ戸建ヲ有スル場合。
- (第十圖) 舵柱ヲ有セズ且ツ舵ヲ船尾材ニ取附ケザル場合ニハ本圖ノ如ク舵頭ノ中心ヲ基點トスル。

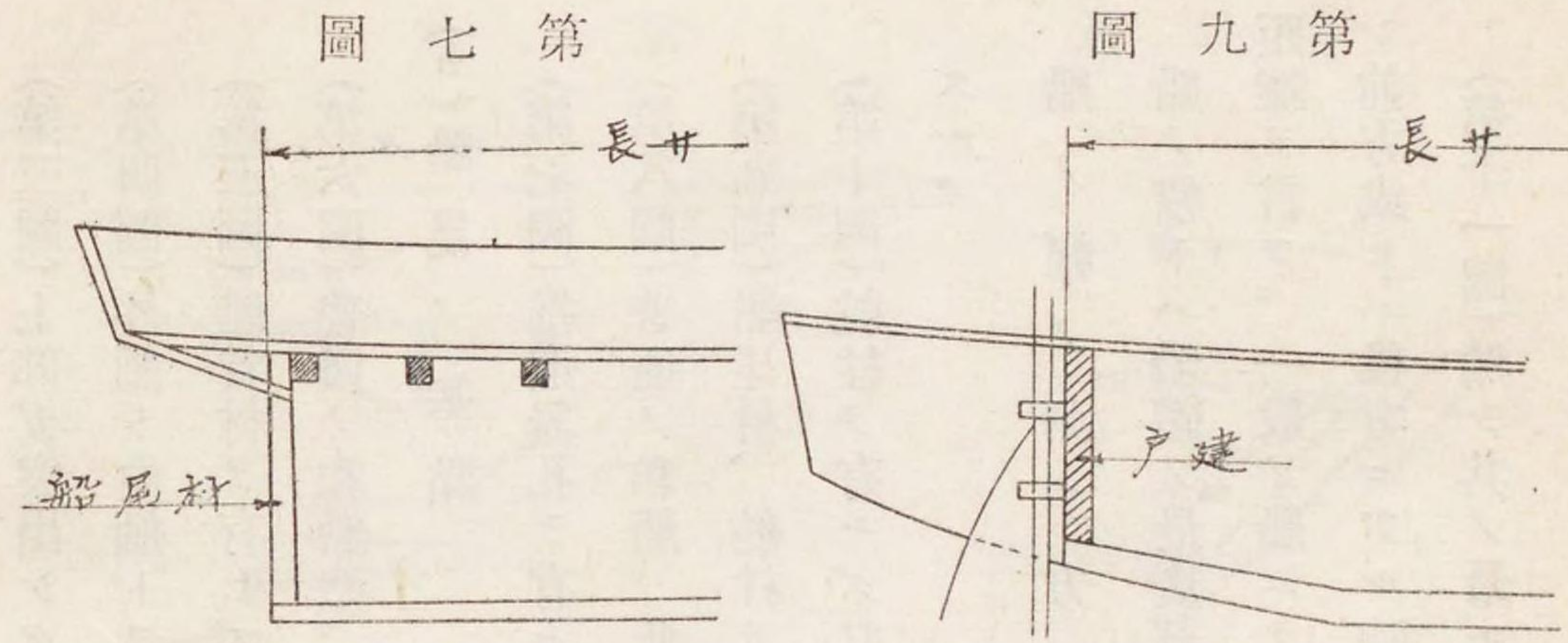




(三) 船ノ深サノ測リ方  
 船ノ深サトハ船ノ長サノ中央ニ於テ、龍骨(又ハ敷)ノ上面カラ、上甲板梁ノ船側ニ於ケル上面マデノ垂直距離ヲ言フノデアル。  
 普通船ノ梁ニハ反(梁矢ト言フ)ガアツテ、梁ハ船ノ中心線ニ於イテ最高、船側ニテ最低トナル。船ノ深サハ中心線ニテ測ルノデナク、船側ノ低イ所ニテ測ルノデアル。(第十二圖、第十三圖、第十五圖) 甲板ノ無イ漁船ニテハ、舷側外板ノ上面(即チ上小縁ノ下面、外小縁ノ上面)マデヲ深サトスル。(第十四圖)

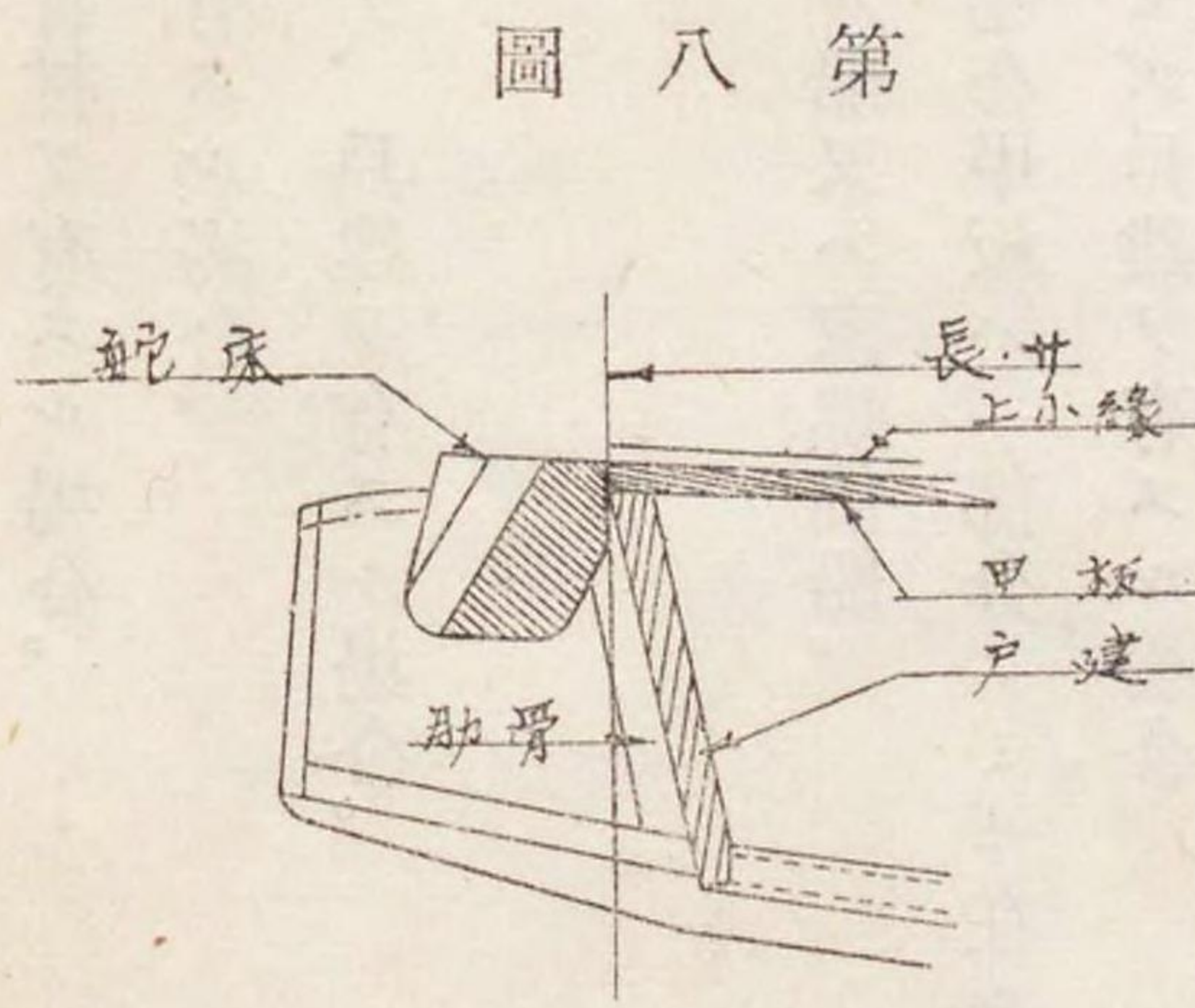
又舷端ガ外部ニ彎曲突出シタ船ニテハ、下ノ方ノ直線部分ヲ延長シテ梁ノ上面ト交ハラセタ

カラ、其ノ附近ニテ數ヶ所測ツテ、其ノ内ノ最大ナル數字ヲ船ノ幅トスル。  
 次ギニ船ノ横斷面ノ形カラ見ルト(イ)船側ガ直立ノモノ(ロ)上ガ狭クナツテキルモノ(ハ)上ガ廣クナツテキルモノノ三種ガアルガ、之等三ツノ形ニテ幅ノ測リ方ヲ述ベルト  
 (イ)ノ場合ハ問題ハナイガ(第十二圖)  
 (ロ)ノ場合ニテハ、下部ノ最モ擴ガツテキル場所ニテ測リ(第十三圖)  
 (ハ)ノ場合ニテハ、下部ノ肋骨ノ外面又ハ外板ノ内面ニ沿ツテ延長シタ直線ト上甲板ノ梁ノ上面トノ交ハリノ點ニテ測ル。(第十四圖、第十五圖)

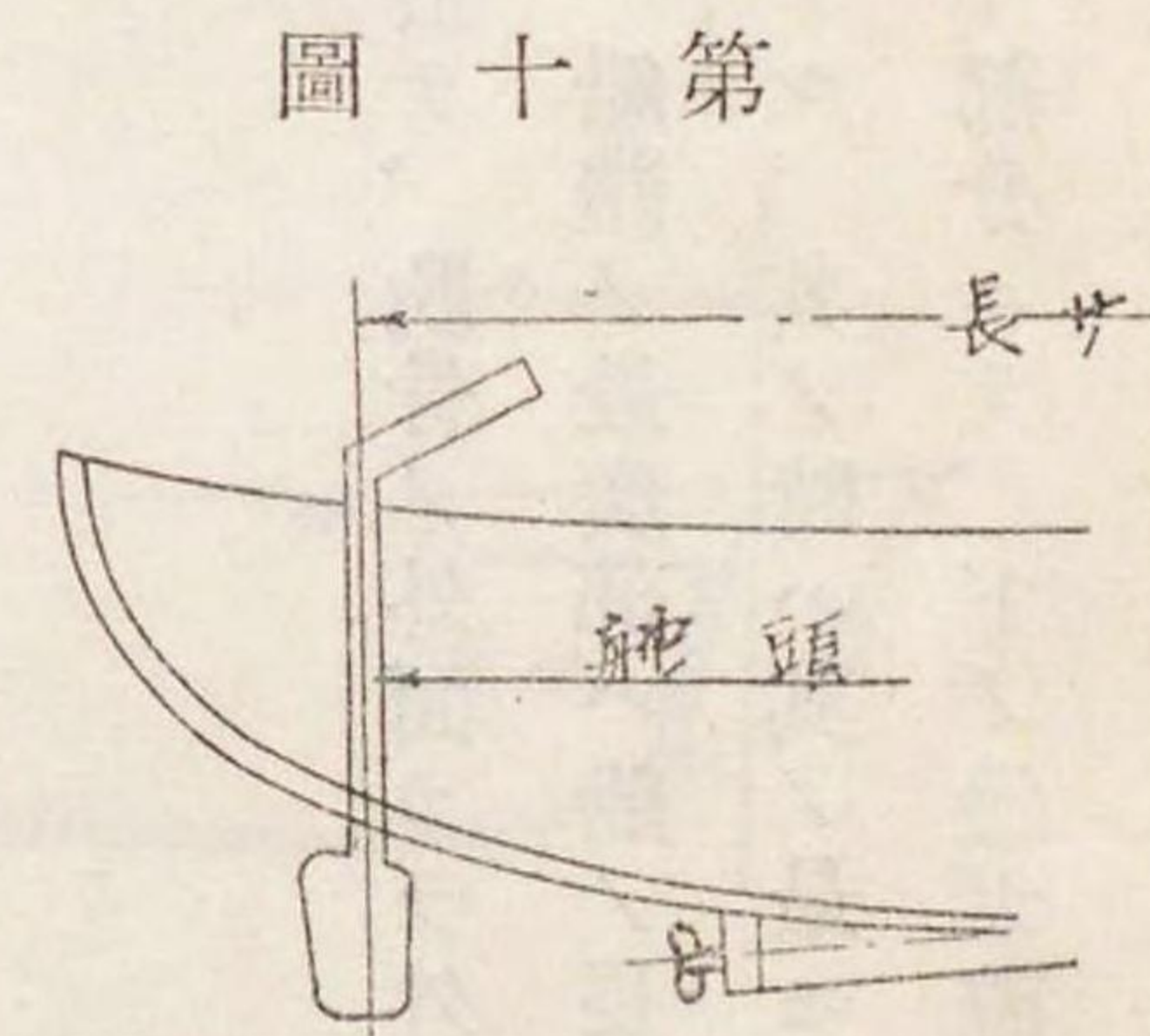


圖七第

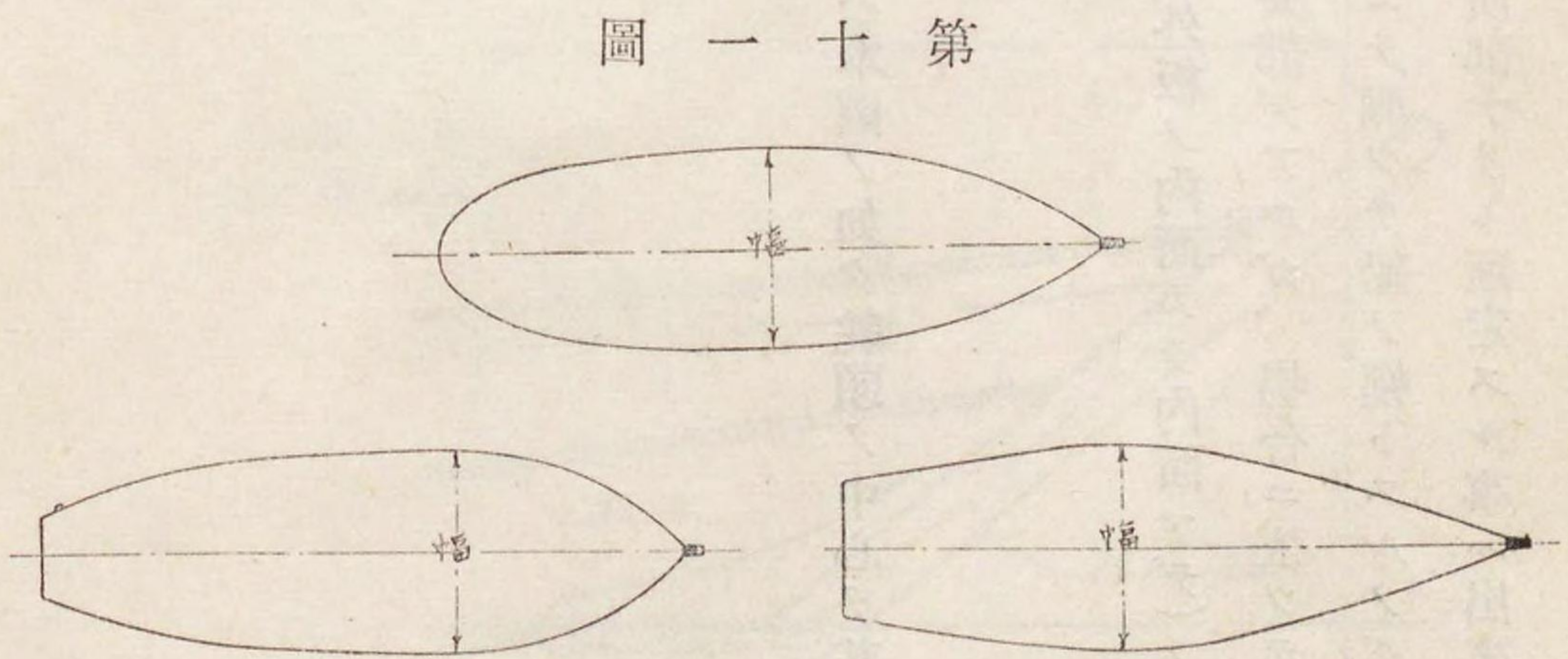
圖九第



圖八第



圖十第



圖一十第



- (四) 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲グルモノニ準ズベキモノト認ム
- (三) 採光、通風ニ要スル場所及ビ便所。
- (二) 機關室、操舵室、賄室及ビ出入口室。
- (一) 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及ビ主機關ト連結セザル副汽罐、副汽機ニ供用セラル、場所。

蔽圍シタル場所ニテモ總噸數ニ入ラヌ場所ハ左ノ通りデアル。(第十六圖)

上甲板上又ハ舷端以上ニテ總噸數ニ入ル蔽圍シタル場所モ同時ニ其ノ大サヲ測リ置ク必要ガアル。

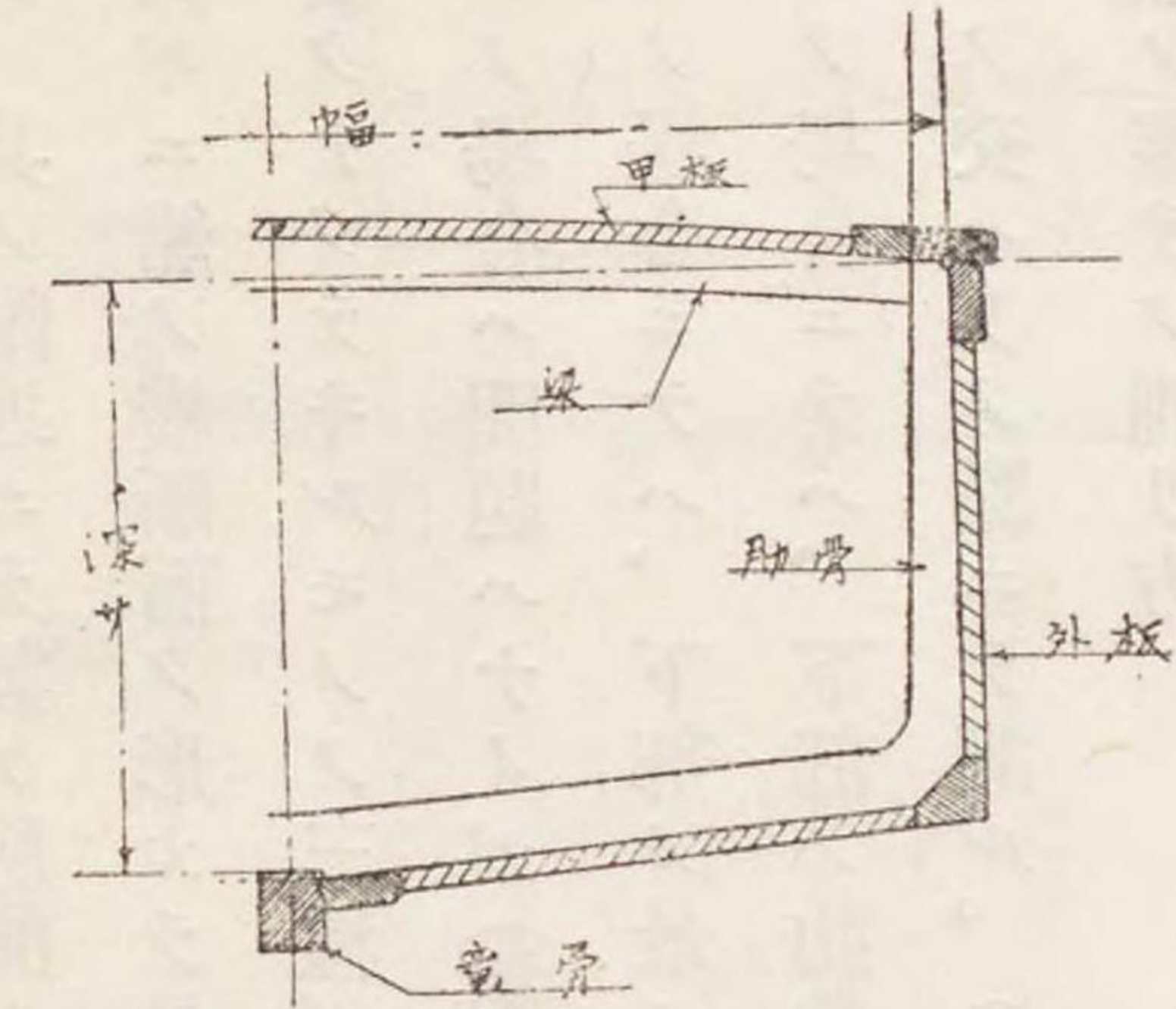
上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ測リ方

點ニテ深サヲ求メル。(第十五圖)

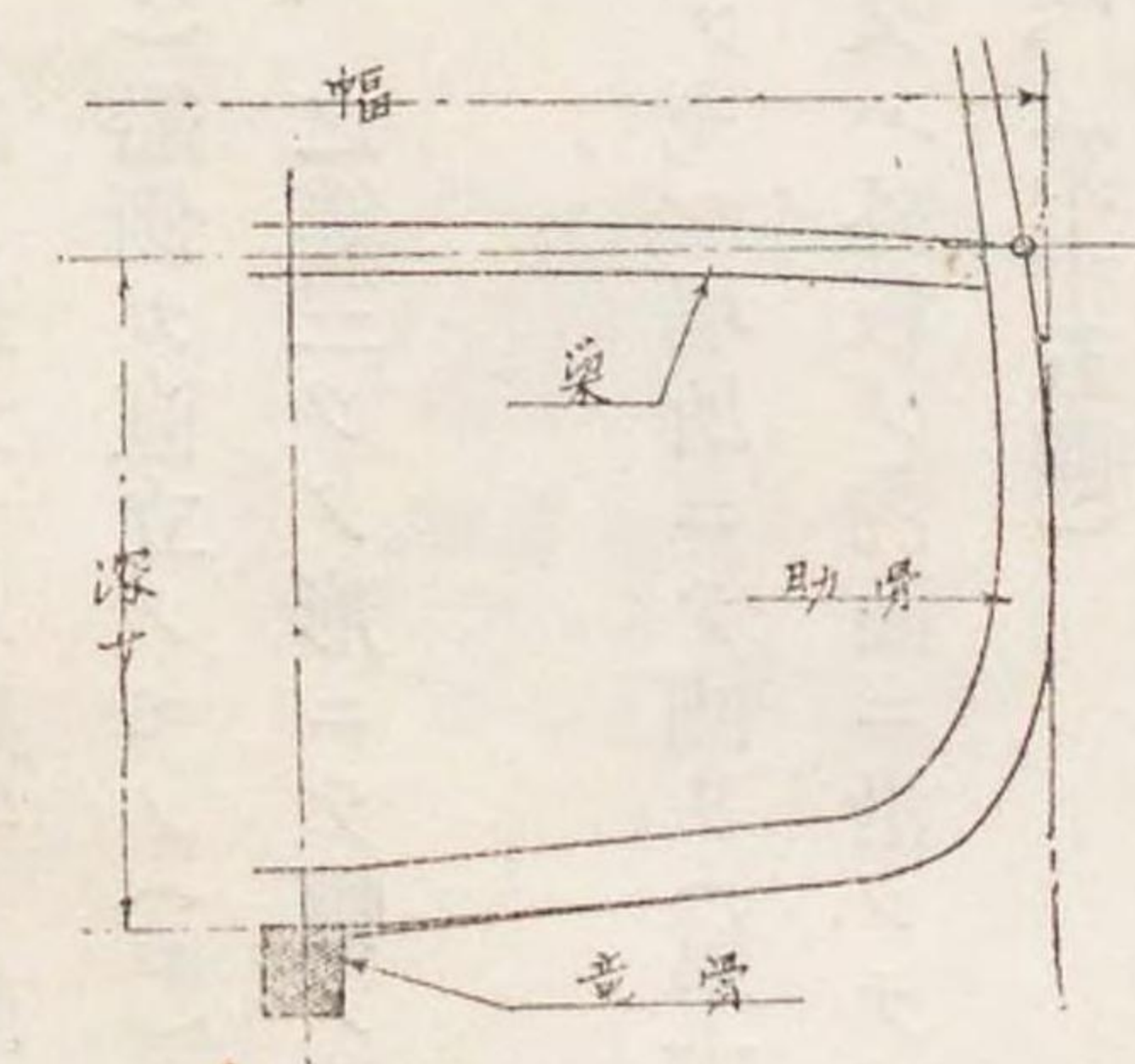
實際ニ測ルニハ、船ノ中心線ニ於ケル深サヲ測ツテ、之レヨリ梁矢ヲ減ジテ、船ノ深サトスルカ、又ハ兩舷ノ深サノ基點ヲ通シテ糸ヲ張り、此ノ糸ヨリ龍骨(又ハ敷)ノ上面マデ測ツテ船ノ深サヲ求メル。

普通龍骨(又ハ敷)ノ上面ハ船底外板ノ内面ヨリ少シ(二厘位)上ツテ居ルカラ注意スル必要ガアル。

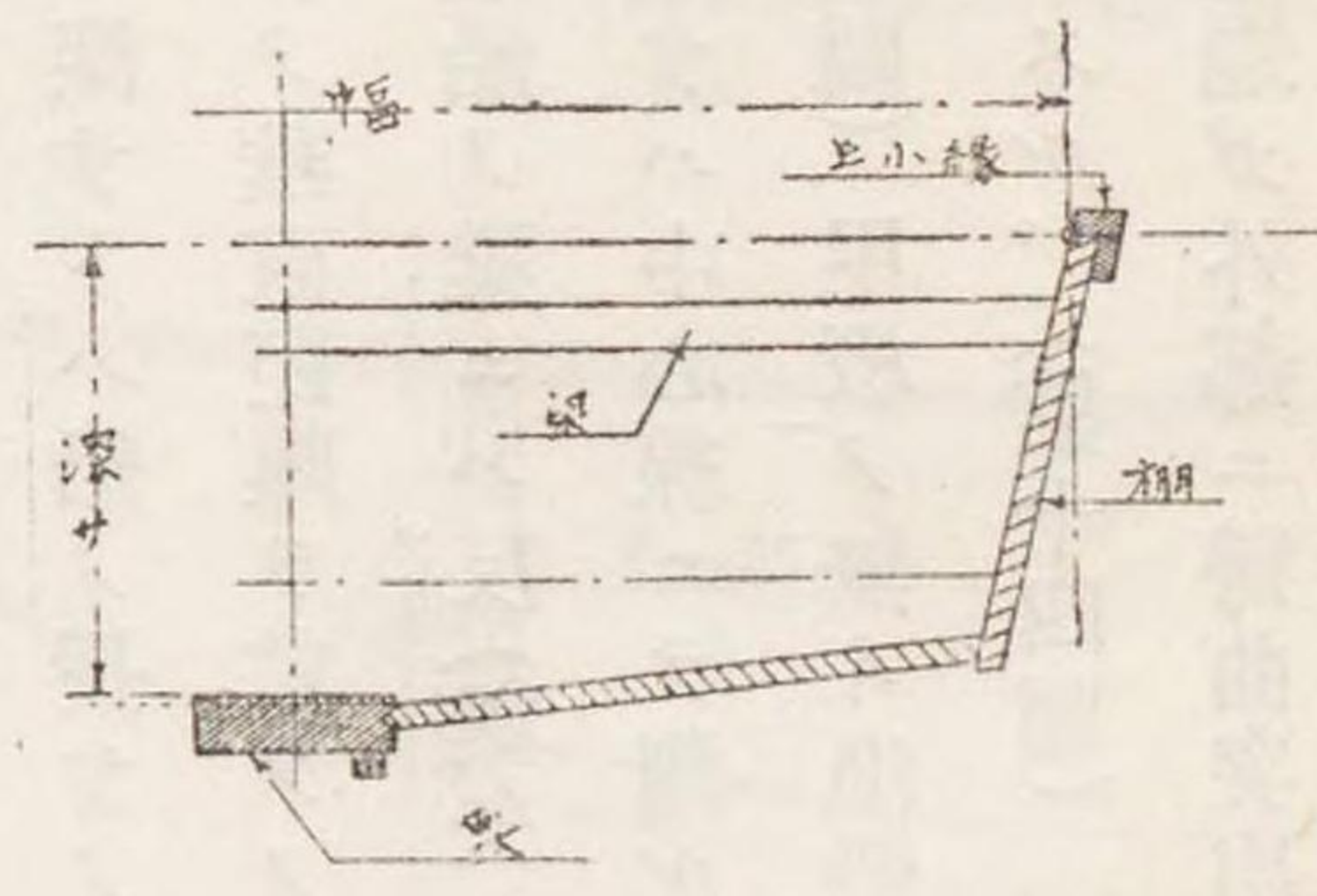
圖二十第



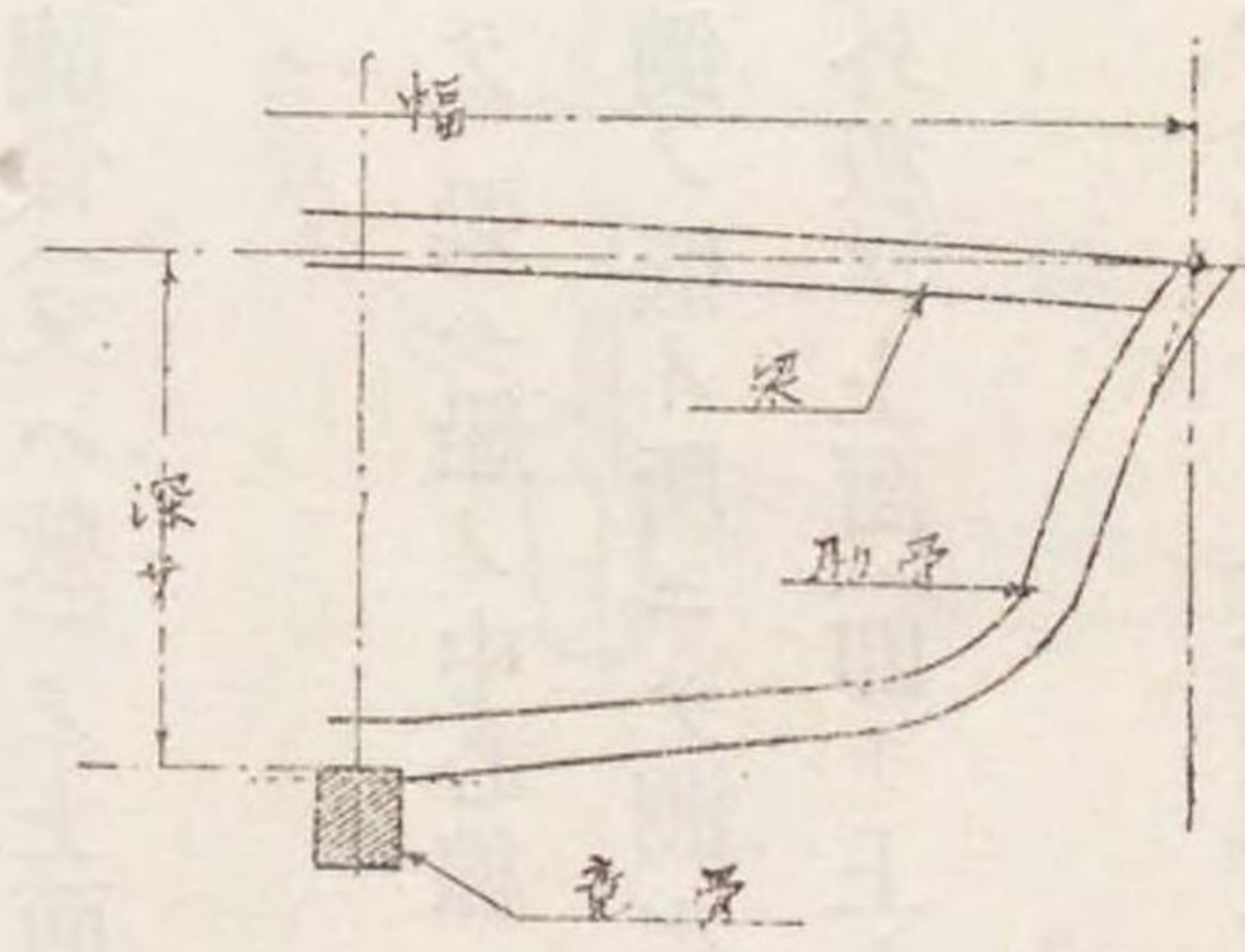
圖三十第



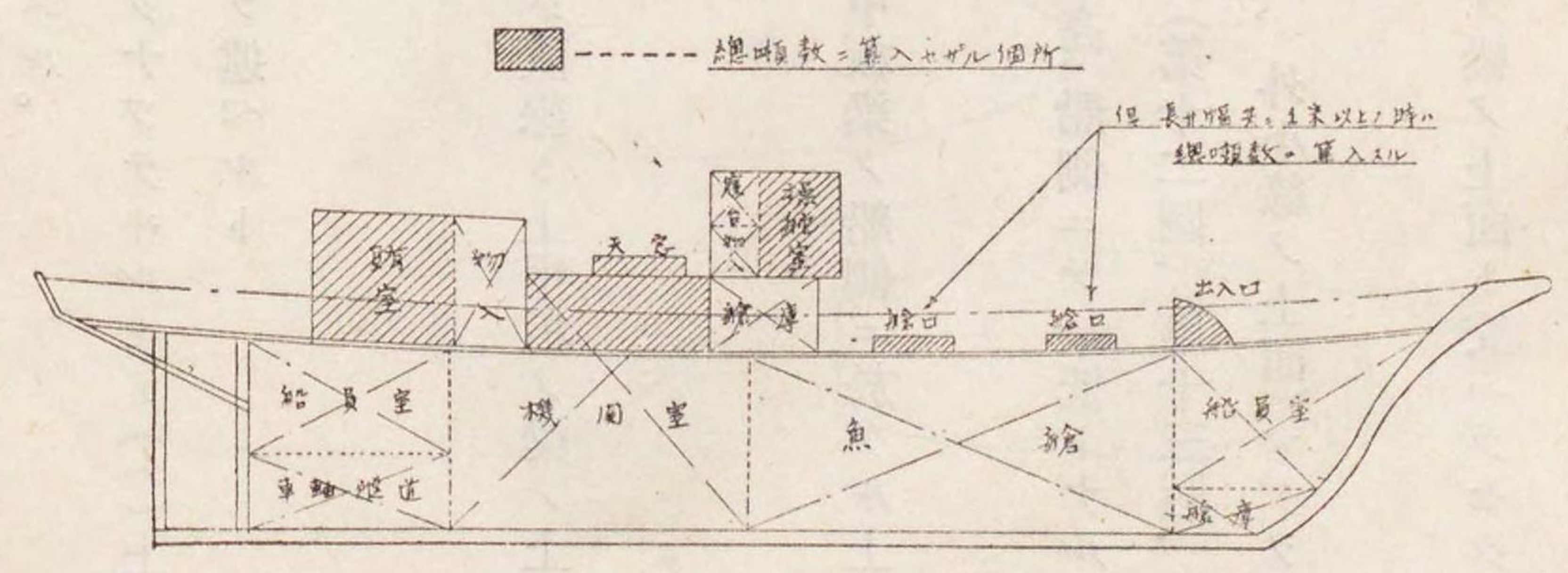
圖四十第



圖五十第



圖六十第





ル場所。

此等ヲ除イタ客室、貨物室、船員室及ビ倉庫等ニ使用サレル船樓及ビ甲板室、並ビニ長サ、幅共ニ一メートル以上ノ艙口ハ凡テ測リ置ク。但シ船樓又ハ甲板室ノ内部ニ在ル艙口ハ船樓又ハ甲板室ノ噸數ニ含マレルカラ、別ニ之ヲ測ル必要ハナイ。此等各部分ヲ測ルニハ、長サ、幅、深サ或ヒハ高サハ何レモ平均値ヲ求メル。即チ平均ノ高サハ、其ノ場所ノ中心線ニ沿ヒ、高サノ中央ニテ測リ、平均ノ幅ハ長サ及ビ高サノ中央ニテ測リ、平均ノ高サハ長サノ中央ニ於ケル平均ノ高サヲ取ル。

然シ特別ナル形状ヲナス場合ニハ、各所ニテ測リ其ノ平均ヲ取ツテ、其處ノ大サトスル。寸法ハ總テ内張板ノ内面ニテ測ル。

艙口ノ蓋板ハ普通傾斜スルカラ、其ノ平均ノ高サヲ測ルニハ、中心線ト側部トノ中央ニ於イテ測ル。

### (五) 機關室ノ測リ方

總噸數カラ純噸數ヲ求ムル場合ニ、機關室ノ噸數ハ控除スベキ項目ニナル。是ニテ機關室ト言フノハ、上甲板下又ハ舷端以下ニ在リテ、船ノ推進ニ用フル汽機、汽罐又ハ發動機等ノ在ル場所ヲ言フノデアツテ、石炭庫、燃油槽、車軸室及車軸隧道ハ機關室ニ入ラナイ。

又上甲板上ニ在ル機關室モ機關室ノ噸數ニ入レナイ。機關室ハ一般ニ形状ガ複雑デアリ、而モ内部ニ機關ガ据付ケラレテアル關係上、實測ハ困難デアルコトガ多イ。依ツテ中央部ニテ平均ノ長サ、幅、深サヲ測ル事ガ出來ヌ時ハ、其ノ周圍ノ測リ得ル所ニテ其等ノ寸法ヲ測リ、後ニ之レヲ適當ニ修正スル。

## 五、總噸數ノ算定

前述ノ如クニシテ、船ノ各部ノ實測ガ終ツタナラバ、之レヨリ船ノ總噸數及ビ純噸數ヲ計算ニテ求メル。

### (一) 上甲板下又ハ舷端以下ノ總噸數ノ求メ方

船ノ長サ、幅、深サヲ掛ケ合ハセ、コレニ左ノ係數ヲ掛ケルト總噸數ニナル。

係數ハ  
木船ニテハ 〇、一九四一五

鋼船、鐵船ニテハ 〇、二一八八六

尙計算ヲ行フニ當ツテ、單位ハ總テ「メートル」ヲ用ヒ、長サ、幅、深サノ相乘積ハ單位下第三位ニ止メ、第四位ハ四捨五入シ、總噸數及ビ純噸數ハ單位下第二位ニ止メ、第三位ハ四捨五入スル。以下例ヲ舉ゲテ計算ヲ行フガ、何レモ二五、〇〇噸型木造標準漁船ニ就イテ行フ。



上甲板下ノ總噸數					上甲板下ノ數
船ノ長サ(米)	船ノ幅(米)	船ノ深サ(米)	相乘積	係數	
18.00	4.00	1.80	129.600	0.19415(木船)	25.16

(二) 上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ總噸數ノ求メ方

次ギニ船ノ總噸數ニ入ル上甲板上又ハ舷端以上ノ部分ノ容積ヲ求メル。例ヘバ船樓、甲板室、  
 艙口等デアアル。

上甲板遮蔽圍シタル場所						
船樓、甲板室及艙口等						
位置及名稱	平均ノ長サ(米)	平均ノ幅(米)	平均ノ高サ(米)	容積	差引容積	
操舵室内部ノ鑿入 臺及物車入 艙物入	.60 1.38 .80	1.80 1.80 1.17	1.70 1.00 1.56	1.836 2.484 1.450	1.836 2.484 1.490	
上甲板上蔽圍シタル場所ノ容積.....						5.780立方米

上甲板上ノ總噸數..... 5.780 × 0.353 = 2.04 噸

(三) 船ノ總噸數

右ノ上甲板下ノ總噸數ト上甲板上ノ總噸數ヲ加ヘタモノガ其ノ船ノ總噸數デアアル。

$$25.16 + 2.04 = 27.20 \text{ 噸} \dots\dots\dots \text{總噸數}$$

### 六、純噸數ノ算定

推進機關ヲ有セザル船ト有スル船トデハ總噸數ヨリ控除スベキ所ノ控除噸數ガ異ナル。

(一) 推進機關ヲ有セザル船ノ場合

コノ時ハ總噸數ノ百分ノ二十ヲ控除噸數トスル。

$$\text{即チ } (\text{純噸數}) = (\text{總噸數}) - \left( \text{總噸數} \times \frac{20}{100} \right)$$

(二) 推進機關ヲ有スル船ノ場合

コノ場合ニハ、前項ノ總噸數ノ百分ノ二十ノ外ニ、機關室ノ噸數ヲ加ヘタモノガ控除噸數トナル。コノ場合機關室ノ噸數トハ實際ニ求メラレタ機關室ノ噸數ノ一倍四分ノ三ト總噸數ノ百



分ノ四十四トヲ比較シテ見テ、其ノ小ナル方ヲ以テ機關室ノ噸數トスルノデアアル。

機 關 室					
位置及名稱	平均ノ長サ(米)	平均ノ幅(米)	平均ノ高サ(米)	容 積	噸 數
發 動 機 室	3.65	2.03	1.80	13.534	4.778
機 關 室 噸 數	.....				
同上噸數ノ一倍四分ノ三	.....				
總 噸 數	.....				
總噸數ノ百分ノ四十四	.....				
(2) 機關室ノ噸數トシテ控除スベキ噸數	.....				
控 除 噸 數 (1) + (2)	.....				

總 噸 數	.....	27.20 噸
(1) 總噸數ノ百分ノ二十	.....	x .20
		5.44 噸

機 關 室 噸 數	.....	4.778 噸
	x	1.75
		8.362
同上噸數ノ一倍四分ノ三	.....	27.20
總 噸 數	.....	x .44
		11.968
總噸數ノ百分ノ四十四	.....	8.36 噸
(2) 機關室ノ噸數トシテ控除スベキ噸數	.....	.....
控 除 噸 數 (1) + (2)	.....	13.80 噸

總 噸 數  
控 除 噸 數  
純 噸 數

27.20 噸  
13.80 噸  
13.40 噸

78  
74



78  
74

附  
船鑑札規則及關係規程



船鑑札規則

船鑑札規則

明治四十年五月  
逓信省令第二四號

改正 大正十二年九月 同十月一  
逓信省令第八八號 日ヨリ施行  
大正十一年六月 同七月一  
逓信省令第三九號 日ヨリ施行  
改正 大正十四年十二月 大正十二年十二月  
省令第九三號 二十一日ヨリ施行  
昭和七年四月十一日 昭和七年六月二十  
逓信省令第九號 日ヨリ施行

第一條 總噸數二十噸未満ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有ス  
ヘシ

大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル  
船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令）第一條ノ法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ス  
ルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

一 總噸數五噸未満ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル  
地方官廳ニ差出スヘシ  
管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務官、其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付

78  
74



テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ  
第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第  
三百二十七號第一條ノ規定ニ依ル領事館ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ申請書ニ添附  
スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但前條第二項ノ證  
明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ  
規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ  
所屬道府縣名（支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名）  
及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方  
法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共「十センチメートル」以上ノ  
文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字船鑑札番號ハ亞刺比

亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ標示ヲ改ムヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求  
ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札ヲ毀損シタルトキハ船舶所有  
者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス  
船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ  
變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘ  
シ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ  
變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ



前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タス遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區劃、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但シ前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前項ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノト爲リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ二 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ

附 則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年十二月遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ  
地方長官ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ  
前項ノ期間内ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滞ナク前項ノ  
手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマ  
テ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セ  
サル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則 (大正二年九月省令第八八號)

本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本令ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラル、コトナシ本令施行前ニ船  
舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタル船舶ニ於テハ船鑑札規則第十二條第一項ニ定ムル期間  
ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日迄本令ノ施行ヲ猶  
豫ス

附 則

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ效力ヲ妨ケラルルコト  
ナシ

第三條 従前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ  
管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交  
付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ  
定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ  
俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ  
(第一號書式)



船鑑札交付申請書

- 一 船種(汽船、帆船ノ別)船名
  - 二 船籍港(當該市町村名)
  - 三 進水ノ年月
  - 四 尺度(船ノ長、幅、深)
  - 五 機關ノ種類(汽機、發動機、電動機ノ別)
  - 六 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分
  - 七 測度ヲ受ケントスル場所
  - 八 申請ノ事由(新造、外國船購入等)
- 右船舶新造(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付船鑑札交付相成度此段及申請候也

年 月 日

住所

氏

名 印

地方官廳宛

(第二號書式)

表

年 月 日	帆 汽 船	第 號	船 鑑 札	住所	氏 名
	丸			住所	
				地方官廳名	
				烙印	

781  
74



裏

船籍港	長	幅	深	總噸數	純噸數	進水ノ年月	機關ノ種類
-----	---	---	---	-----	-----	-------	-------

備考  
 一 船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區畫ニ付テハ何府縣何郡何町何村等ト記載スヘシ  
 二 船鑑札ノ寸法ハ豎十五センチメートル横十センチメートル厚及木質ハ適宜トス

### 船鑑札規則施行手續

明治四十年五月  
逓信省訓令第一號

改正 大正二年九月(同年十月一日) 逓信省訓令第九號(日ヨリ施行)  
 改正 昭和七年五月二十四日 逓信省訓令第二號  
 逓信省訓令第二號(日ヨリ施行)

第一條 地方官廳ハ第一號書式ノ船鑑札臺帳ヲ備置キ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名及船鑑札ノ交付、書換、再交付若ハ返還ノ年月日並事由ヲ記載スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタルヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地臨檢シタル上船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第二條 船舶ニハ番號ヲ點附シ之ヲ船鑑札及船鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第三條 船鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙地方官廳ニ於テ通知ヲ受ケ又ハ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケ船鑑札ヲ交付シタルトキハ其ノ旨遲滞ナク甲地方官廳ニ通知スヘシ

甲地方官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ船鑑札臺帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ



第四條 地方官廳ニ於テ船鑑札規則第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ廢棄スヘシ

第五條 地方官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄管海官廳ニ通知スヘシ

第六條 管海官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ積量ニ異動アルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク其ノ旨管轄地方官廳ニ通知スヘシ

船舶法ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ爲シタル船舶船鑑札規則ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ船舶原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條 削除

第八條 地方官廳ハ毎年一月中ニ其ノ前年末現在ニ於ケル船鑑札船ノ統計ヲ、尙汽船ニ付テハ毎年一月及七月中ニ其ノ前六箇月間ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ遞信省ニ報告スヘシ

第九條 地方長官ニ於テ船鑑札規則ノ施行ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

附 則

第十條 明治二十九年<sup>十二</sup> 遞信省訓令第四號船鑑札規則施行手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 第八條ノ報告ハ本手續施行ノ年ノ七月ニハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 本手續施行ノ際現ニ船鑑札ヲ有スル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十八條ノ規定ニ依リ新船鑑札ヲ受有スルヲ待タス第二條ニ規定スル番號ヲ點附シ現ニ備付ノ船鑑札臺帳ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ船舶ニ關スル件名ハ別ニ定ムル用紙ニ記載シ本手續施行後三箇月内ニ遞信省ニ報告スヘシ

附 則

本手續ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船鑑札臺帳ノ書式ハ昭和七年<sup>四</sup> 遞信省令第九號附則第三條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換ヲ爲スマテ尙従前ノ例ニ依ル







船	發動機又ハ電動機ヲ併セ有スルモノ		
	小計		
合計			

備考

- 一 本報告ニ記載スル噸數ハ船舶毎ニ單位ニ止メタルモノヲ合算シテ計上スルモノトス
- 二 當分ノ内石數船ニ付テハ合計ノ項中船數及總噸數ノ欄ニ船數及積石數ヲ夫々朱記スヘシ

第二號書式 (乙)

汽船異動報告 何年(前又ハ後)期

第一 船鑑札新交付

番號	船名	船籍港	總噸數	純噸數	機關ノ種類	船鑑札交付事由	船鑑札交付月日	所有者氏名

第二 船鑑札書換

番號	船名	變更事項	新事項	舊事項	船鑑札書換事由	船鑑札書換月日	所有者氏名

第三 船鑑札返還

番號	船名	船鑑札返還事由	船鑑札返還月日	所有者氏名

備考

- 一 本報告ハ毎年一月乃至六月ヲ前期トシ七月乃至十二月ヲ後期トス
- 二 船鑑札交付事由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登簿船ヨリ編入等船鑑札ヲ交付シタル原因ヲ記載シ且他府縣ヨリ轉入ノ場合ハ前地方官廳ニ於ケル番號及船名ヲ併記スヘシ
- 三 船鑑札ノ書換ヲ爲スモ第一書式ノ事項ニ變更ヲキトキハ報告スルニ及ハス
- 四 船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ハ空欄ノ儘トシ變更事項欄ニ新舊船名又ハ新所有者名ヲ記載スヘシ
- 五 船鑑札返還事由欄ニハ滅失、沈没、解撤、國籍喪失、存否不明、何府縣ヘ轉出、登簿船ニ編入等船鑑札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ
- 六 船鑑札規則第八條及第九條ノ場合ニ於テハ船鑑札裏帳ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキヲ以テ船鑑札ノ返還アリタルモノトシテ報告スヘシ



船鑑札事務ノ取扱ニ關スル注意

明治四十年五月  
管發乾第三三九號通牒

第一 積量測度

- 一 積量測度ノ執行正確ヲ缺クトキハ實際總噸數二十噸以上ノ船舶(殊ニ帆船)ニシテ船鑑札ヲ受有シ船舶法、船舶検査法、船舶職員法其ノ他ノ法規ノ適用ヲ避クルニ至リ取締上不都合尠ナカラス新規則施行以後ハ測度ヲ精密ニ執行スル様注意アルヘシ
- 二 積量測度其ノ他ノ船鑑札規則ノ施行ニ關シ疑義アルトキハ遞信省管船局又ハ最寄管海官廳ニ照會セラレタシ又隨時主任官ヲ管海官廳ニ派遣シ測度其ノ他技術上ノ事項ヲ講習セシムルカ如キハ頗ル良法ナルヘク管海官廳ハ之ニ對シ相當ノ便利ヲ圖ルヘシ
- 三 削除
- 四 削除
- 五 船鑑札規則第三條ノ場合ニ於テ其ノ船舶他地方官廳ノ管内ニ在ルトキハ甲地方官廳該船舶ノ積量ノ測度ヲ乙地方官廳ニ囑託スルコトヲ得

改正  
 明治四十一年二月  
 管發乾第六五號通牒  
 明治四十四年一月  
 管發乾第二四號通牒  
 大正三年九月  
 管發乾第三四三號通牒  
 昭和七年六月十三日  
 船底第三六四號通牒

- 六 前項ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ直接乙地方官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請シタルトキハ乙地方官廳ハ測度執行ノ上積量ニ關スル證明書ヲ交付スヘキモノトス此ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ之ヲ船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ト認メテ處理スヘキモノトス
- 七 船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ニハ船鑑札ニ記載スヘキ尺度及積量ヲ記載スヘキモノトス尙右ノ證明書ニ機關ノ種類ヲ記載スルニ於テハ船鑑札規則第三條但書ノ適用上便利ナルヘシ
- 八 削除

第二 船鑑札

- 一 船鑑札規則第一條ノ船舶ト雖モ執行ノ用ニ適セサル構造ヲ有スルモノハ鑑札ヲ受有スルコトヲ要セス  
 總噸數五噸未滿ノ發動機船ハ船鑑札規則ノ適用ニ付テハ端舟ト看做シ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セス
- 二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ト雖モ日本ニ船籍港ヲ定メ鑑札ヲ受有スルコトヲ要ス
- 三 漁船ト雖モ船鑑札規則第一條ニ該當スルモノハ鑑札ヲ受有スルコトヲ要ス
- 四 乃至八 削除



九 鑑札ニ記載スヘキ進水年月不明ナル場合ニハ製造年月ヲ以テ進水年月ト看做シ之ヲ記載スヘキモノトス

十 鑑札面ノ所有者住所ハ番地マテ尺度及噸數ハ單位下第二位ニ止メ第三位ハ四捨五入シタルモノヲ記載スヘキモノトス

十一 支廳及市町村ニ於テ船鑑札事務ヲ取扱フ場合ニ於テモ鑑札ニハ必ス府縣名ヲ記シ之ニ相當スル烙印ヲ捺スヘキモノトス

十二 鑑札ヲ書換又ハ再交付スル場合ニハ鑑札ニ之ヲ作成シタル年月日ヲ記載シ其ノ下ニ「書換」又ハ「再交付」ト朱記スヘキモノトス

十三 削除

十四 府縣ニ依リテハ徵稅上ノ關係等ヨリシテ別ニ船鑑札似寄ノ鑑札ヲ船舶ニ交付セル趣ナルモ斯クテハ彼此ノ混淆ヲ生スル虞アルニヨリ右ハ一見識別シ易キ様寸法其ノ他ノ形式ヲ定メラレタシ

### 第三 船舶 番 號

一 船名ハ之ヲ同ウスルモノ多ク又之ヲ變更スルコト頻繁ナルヲ以テ船名ノミニテハ當該船舶ノ何レナルヤヲ區別シ難キ場合アルニヨリ番號ヲ以テ區別ノ標準ト爲スヘシ

二 番號ハ新ニ船鑑札ヲ交付スル毎ニ順次ニ之ヲ點附シ支廳、市町村ノ別若ハ汽船、帆船ノ別又ハ船鑑札交付ノ年月ニ依リテ各新ナル番號ヲ起スヘカラス

三 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市町村ニ委任スルトキハ府縣ニ於テ船舶番號配付簿ヲ備ヘ豫メ適當ノ數ニ限り番號ヲ支廳、市町村ニ配付シ置クヘシ例ヘハ甲市ニハ一號ヨリ五十號マテ乙市ニハ五十一號ヨリ百號マテト配付スルカ如シ支廳、市町村ニ於テ配付ヲ受ケタル番號ノ殘餘僅少ト爲リタルトキハ府縣ニ請求シテ更ニ其ノ配付ヲ受ケシムヘシ

四 番號ハ船舶カ當該府縣ニ存在スル限りハ假令船鑑札ヲ書換又ハ再交付スルコトアルモ之ヲ改ムヘカラス故ニ番號ニ變更ヲ來スハ他ノ府縣ヘ轉籍シタル爲メ更ニ其ノ府縣ノ番號ヲ受クル場合ニ限ル

五 削除

六 船鑑札規則施行手續第一條第二項又ハ第三條第二項ノ手續ヲ爲シタル船舶ノ番號ハ再ヒ他ノ船舶ニ點附スヘカラス但同一船舶ニ對スル場合（沈沒船ヲ引揚ケ再用シタル場合又ハ他府縣ヘ轉籍シタル船舶再ヒ轉入シタル場合等）ニハ舊番號ヲ點附スヘシ

七 前項但書ノ場合ニ於テ舊番號不明ナルトキハ新番號ヲ點附スルモ妨ナキモノトス

### 第四 船 鑑 札 臺 帳



- 一 臺帳ハ府縣ニ備付クルコトヲ原則トス若シ船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市町村ニ委任スルトキハ別ニ同様式ノ臺帳ヲ備置カシムヘシ
- 二 臺帳ハ一枚ヲ一隻ノ船舶ニ使用シ汽船、帆船ノ別ニヨリ番號順ニ整理スヘシ
- 三 臺帳ニ記載スル尺度及噸數ハ單位下第二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ
- 四 削除
- 五 臺帳ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ舊事項ヲ朱抹シ左ノ區別ニ從ヒテ新事項ヲ記載シ記事欄ニ變更ノ事由ヲ記載スヘシ
  - 一 始メテ變更アリタル場合ニハ朱抹シタル欄ノ次欄ニ新事項ヲ記載スヘシ
  - 二 第二回ニ變更アリタル場合ニハ前號ニ依リ記載シタル欄ノ次欄ニ新事項ヲ記載スヘシ第三回及第四回之ニ做フ
- 六 變更五回ニ及ビ用紙ニ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ現存事項ヲ新ナル臺帳用紙ニ移記スヘシ此ノ場合ニ於テ前用紙ノ欄外ニ「第一葉」ト記載シ其ノ末尾ノ記事欄ニ第二葉ニ移記シタル旨ヲ附記シ新ナル用紙ノ欄外ニ「第二葉」ト記載シ其ノ最初ノ記事欄ニ第一葉ヨリ移シタル旨ヲ附記スヘシ第三葉以下又之ニ做フ
- 七 臺帳記載事項ノ訂正ヲ要スルトキハ次欄ニ移スコトヲ爲サス各其ノ記載欄ニ於テ朱記訂正シ

- 記事欄ニ訂正ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ
- 八 臺帳記載事項ニ變更ナク單ニ船鑑札ノ書換(鑑札毀損ノ場合)又ハ再交付(鑑札滅失ノ場合)ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ書換又ハ再交付ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ
- 九 記事欄ノ記載事項ハ簡明ナルコトヲ要ス例ヘハ新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合ニハ内國新造、外國ヨリ購入、何府縣ヨリ轉入等ト記載シ船鑑札ヲ書換ヘタル場合ニハ賣買、修繕、轉籍等ト記載シ書換以外ノ場合ニ船鑑札ヲ返還シタル場合ニハ沈沒、解撤等ト記載シ又船鑑札規則施行手續第三條第二項ニ依リ船鑑札臺帳ノ用紙ヲ閉鎖シタル場合ニハ何府縣ヘ轉出等ト記載スルカ如シ
- 十 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市町村ニ委任スルトキハ支廳、市町村ニ於テ臺帳ニ記載ヲ爲ス毎ニ遲滞ナク其ノ臺帳ノ謄本又ハ抄本ヲ府縣ニ送付セシメ府縣ニ於テハ之ニ依リ直ニ臺帳ヲ整理スヘシ
- 十一 臺帳索引ハ汽船、帆船ニ分チ別冊トシ船名ノ頭字ノ音ニ依リ伊、呂、波ニ區分シ船名、番號及備考欄ヲ設ケ一船毎ニ其ノ番號、船名及用紙番號ヲ記載スヘシ船名ノ變更ニ依リ他ノ部ヘ移シタルトキ又ハ用紙ヲ閉鎖シタルトキハ備考欄ニ其ノ事由ヲ記載ノ上當該欄ヲ朱抹スヘシ



十二 臺帳ノ謄本ヲ作成スルニハ朱抹セサル事項即現存セル部分ノミヲ謄寫スヘキモノトス  
 十三 他府縣ヨリ轉入シタル船舶ヲ船鑑札臺帳ニ記載スルトキハ記事欄ニ舊番號並船名ヲ記載シ以テ前後ノ聯絡ヲ明カニスヘシ

第五 轉 籍

一 從來ノ經驗ニ依レハ甲地方官廳ハ船舶所有者ノ轉籍ノ申出ニ依リテ直ニ當該船舶除籍ノ取扱ヲ爲スニ拘ハラス右所有者ハ其ノ轉籍先ヲ管轄スル乙地方官廳ニ何等ノ手續ヲ爲サスシテ打過キ其ノ結果該船舶ハ無籍同様ト爲ルコト尠シトセス新規則ニ於テハ轉籍ニ關スル取扱方ヲ改メタルヲ以テ轉籍ノ申請アリタルトキハ甲地方官廳ハ所有者ニ對シ乙地方官廳ヨリ新船鑑札ヲ受領スヘキコトヲ注意シ又乙地方官廳ハ所有者ヲシテ其ノ手續ヲ履行セシムル様注意セラレタシ

二 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市町村ニ委任スルトキハ支廳、市町村間ノ轉籍ニ關スル手續ハ府縣間ノ轉籍ニ關スル規定ニ準シテ之ヲ定メ以テ事務ノ統一ヲ期セラレタシ  
 三 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ハ之ヲ書換フルコトヲ要セス又船鑑札臺帳ニハ何等ノ記載ヲ爲スコトヲ要セス

四 船鑑札規則第九條第一項ニ依リ乙地方官廳ニ於テ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ

新船鑑札交付ノコトヲ所有者ニ通知スヘシ

五 削除

六 所有者其ノ他ノ事項ニ變更アリタルト同時ニ船籍港ヲ甲地方官廳ノ管内ヨリ乙地方官廳ノ管内ニ變更シタルトキハ甲地方官廳ハ先ツ所有者其ノ他ノ事項ニ付變更ノ手續ヲ爲シタル上轉籍ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第六 雜 件

一 從來ノ船鑑札規則施行ノ狀況ヲ見ルニ府縣ニ依リテ寬嚴精粗其ノ程度ヲ異ニシ或ル地方官廳ニ於テ取締上ニ注意ヲ加フルトキハ所有者ハ直ニ船籍ヲ他ノ管内ニ移シテ之ヲ避クル等ノ不都合ヲ生スルコトアリ將來ハ各府縣トモ步調ヲ一ニシテ取扱ハレタシ

二、三、四、削除

五 船鑑札規則第十三條ニ掲クル船舶ハ總噸數二十噸未滿ノ汽船ヲ謂フ

六 外板及肋骨ノ大半ヲ船體ヨリ撤去シタル場合ヲ解撤ト看做スヘシ

七 外國ニ於テ本邦人ノ新造又ハ購入シタル小形船舶ニハ船鑑札受有ニ至ルマテ領事ニ於テ假船鑑札ヲ交付シ差支ナキコトニ取扱ヒ來レリ故ニ外國ヨリ回航ノ小形船舶中之ヲ受有セルモノアルヘシ



○船舶積量測定法

大正三年三月三十一日  
法律第三十四號、總、農、大、司、遞大臣副署

改正 昭和六年法律第六號(昭和七年六月二十日ヨリ施行)

- 第一條 船舶ノ積量ハ船舶ノ内法容積ヲ測定シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス
- 第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ測定甲板トス
- 第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ測定甲板下ノ積量ニ測定甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ測定甲板下ノ積量ニ測定甲板上各甲板間ノ積量及上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス
  - 一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽鐘副汽機ニ使用セラルル場所
  - 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
  - 三 採光通風ニ要スル場所及便所
  - 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル



場所

前項ニ掲クル機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルコトヲ得  
甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第四條 總積量ヨリ左ニ掲クル場所ノ積量ヲ控除シタルモノヲ純積量トス但シ總積量ニ算入セサル場所ノ積量ハ之ヲ控除セス

- 一 船員常用室及海圖室
- 二 荷足水艙
- 三 機關室
- 四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽鐘副汽機ニ供用セラルル場所
- 五 水夫長倉庫
- 六 帆船ノ帆庫
- 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所



第五條 前二條ニ掲クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 純積量ノ算定ニ付機關室ノ積量トシテ總積量ヨリ控除スヘキ積量ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ十三ヲ超ユ百分ノ二十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十ヲ超ユ百分ノ三十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十七

二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル積量カ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ積量ヲ總積量ヨリ減シタル積量ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ帆庫ノ積量カ總積量ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條 總積量又ハ純積量ヲ噸(三百五十三分ノ千立方メートル)ヲ以テ表ハシタルモノヲ夫々總

噸數又ハ純噸數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條ノ二 主務大臣ハ長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ付第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

第十條 本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條 舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

第十四條 舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト看做ス

第十五條 本法公布前造船獎勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船獎勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル



第十六條 本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限内舊法ニ依ル

第十七條 本法施行ノ際現ニ遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ獎勵金下付ノ許可期間内舊法ニ依ル

第十八條 第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セス

第十九條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

附 則 (昭和六年法律第六號附則)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 従前ノ規定ニ依リ測度シタル船舶ノ總噸數又ハ登簿噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測度シタル總噸數又ハ純噸數ト看做ス

第三條 従前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測度ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測スル迄仍従前ノ規定ニ依ル

第四條 他ノ法令中登簿噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條 船舶カ本法施行ノ結果登記登錄ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲ノ其登記登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登錄ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登錄ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第六條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ本法施行ノ結果登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間其ノ事項ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

船舶ニ設定セラレタル質權ハ該船舶カ本法施行ノ結果登記スヘキ船舶ト爲リタルトキト雖モ其ノ效力ヲ害セラルルコトナシ



簡易船舶積量測度規程

昭和七年四月十一日  
逕信省令第十二號

第一條 長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 船ノ長トハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ深トハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ

第三條 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヲ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

一部分ノミニ上甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ甲板ナキ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

前各項ノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長、幅及深ハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 長、幅、深及高ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第五條 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

- 一 機關室、操舵室、賄室及出入口室
- 二 採光通風ニ要スル場所及便所
- 三 長又ハ幅一メートル未滿ナル暴露シタル艙口
- 四 遞信大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第六條 船樓、甲板室、其ノ他上甲板上ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル



ル以上高百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖装置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ併用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼	船	○・六二
木	船	○・五五

上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

第八條 總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ内小ナルモノヲ控除シタルモノヲ純積量トス  
機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ内法ノ平均ノ長、幅及深ヲ相乘スヘシ

第九條 形狀複雑ナル場所ノ積量ハ其ノ場所ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ算定スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ大正三年七月遞信省令第十六號船舶積量測度規程ニ依ルコトヲ得





781  
74

昭和十四年一月七日印刷  
昭和十四年一月十日發行

### 農林省水産局

印刷者  
東京市麴町區麴町五丁目二番地  
杉田彌太郎

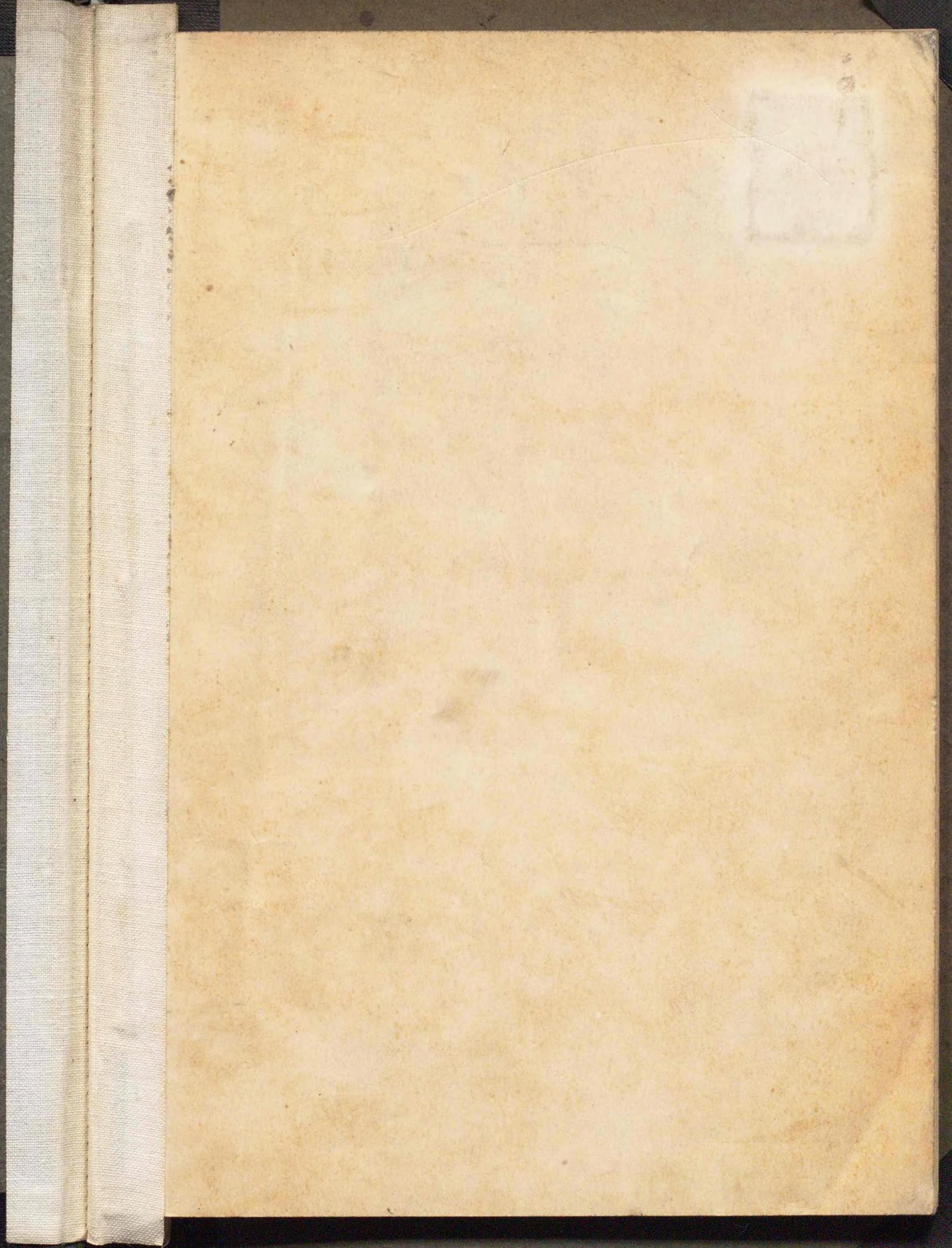
印刷所  
東京市麴町區麴町五丁目二番地  
杉田屋印刷所  
電話九段(長)一〇五七四番



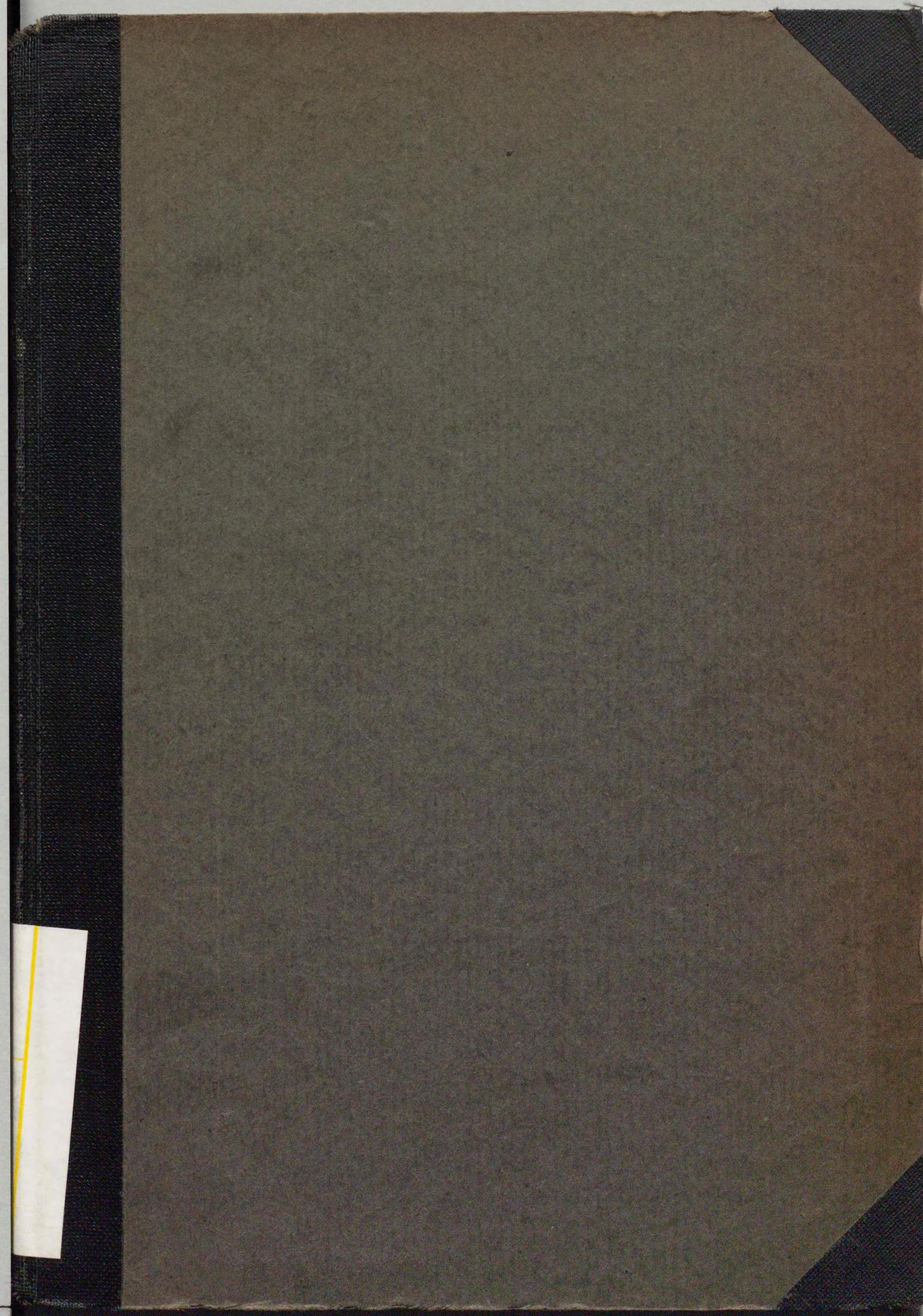




781  
74







Small white label with yellow lines on the spine.